

令和7年度 「若い世代の生活意識調査」

令和7年11月

- 主に「社会の変化とライフデザインの必要性」「ライフデザインの経験等」「ライフデザイン支援のニーズ」を明らかにすることを目的に若い世代及び他世代を対象としたアンケート調査を実施。

名称	令和7年度 若い世代の生活意識調査
目的	これまでの議論で整理してきた ライフデザインの意義及び実態や、若者へのライフデザイン支援のニーズについて、「社会の変化とライフデザインの必要性」「ライフデザインの経験等」「ライフデザイン支援のニーズ」に分類し、定量的に裏付けをすることを目的とする。
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> インターネット調査
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 調査会社のインターネットモニター -「社会の変化とライフデザインの必要性」「ライフデザインの経験等」15～69歳の男女 -「ライフデザイン支援のニーズ」は15～39歳の男女
分析軸 及び 抽出方針	<p>【主な分析軸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢別（世代別） ・都市/地方別 <p>※政令指定都市及び東京23区を都市と整理</p> <p>【抽出方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性/年齢で均等割付（WB集計）※都市部/地方部でのクロス集計は実施 ・全体で合計18,760sを割り付け <p>※15～39歳は年齢5歳階級、性年齢別、都市/地方別で各セル625s回収想定で割り付け ※40～69歳は年齢5歳階級、性年齢別、都市/地方別で各セル313s回収想定で割り付け</p>
実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年11月

- 都市部を中心に若年層が目標回収数未達ではあるものの概ね回収。

【都市部】男性・15～19歳	174
【都市部】男性・20～24歳	510
【都市部】男性・25～29歳	625
【都市部】男性・30～34歳	625
【都市部】男性・35～39歳	625
【都市部】男性・40～44歳	313
【都市部】男性・45～49歳	313
【都市部】男性・50～54歳	313
【都市部】男性・55～59歳	313
【都市部】男性・60～64歳	313
【都市部】男性・65～69歳	313

【都市部】女性・15～19歳	358
【都市部】女性・20～24歳	625
【都市部】女性・25～29歳	625
【都市部】女性・30～34歳	625
【都市部】女性・35～39歳	625
【都市部】女性・40～44歳	313
【都市部】女性・45～49歳	313
【都市部】女性・50～54歳	313
【都市部】女性・55～59歳	313
【都市部】女性・60～64歳	313
【都市部】女性・65～69歳	313

【地方部】男性・15～19歳	350
【地方部】男性・20～24歳	625
【地方部】男性・25～29歳	625
【地方部】男性・30～34歳	625
【地方部】男性・35～39歳	625
【地方部】男性・40～44歳	313
【地方部】男性・45～49歳	313
【地方部】男性・50～54歳	313
【地方部】男性・55～59歳	313
【地方部】男性・60～64歳	313
【地方部】男性・65～69歳	313

【地方部】女性・15～19歳	625
【地方部】女性・20～24歳	625
【地方部】女性・25～29歳	625
【地方部】女性・30～34歳	625
【地方部】女性・35～39歳	625
【地方部】女性・40～44歳	313
【地方部】女性・45～49歳	313
【地方部】女性・50～54歳	313
【地方部】女性・55～59歳	313
【地方部】女性・60～64歳	313
【地方部】女性・65～69歳	313

- 回収したサンプルを対象者年齢層の人口構成に近づけるため、都市/地方部×性別×年代の44セグメントで修正値を算出して、ウエイトバック集計を実施。

■各セグメントのウエイトバック値

	15～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳
【都市部】男性	0.984	1.236	1.329	1.370	1.486	1.618	1.850	1.654	1.427	1.195	1.215
【都市部】女性	0.955	1.254	1.351	1.371	1.477	1.613	1.858	1.645	1.416	1.213	1.284
【地方部】男性	2.571	2.490	2.466	2.700	3.078	3.555	4.153	3.627	3.345	3.240	3.613
【地方部】女性	2.424	2.343	2.300	2.564	2.986	3.450	4.052	3.618	3.401	3.361	3.858

■ウエイトバック集計後の各セグメントサンプルサイズ ※実施は小数点以下も発生するが整数で表記

	15～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳
【都市部】男性	186	234	251	259	281	306	350	313	270	226	230
【都市部】女性	181	237	255	259	279	305	351	311	268	229	243
【地方部】男性	486	471	466	510	582	672	785	686	632	613	683
【地方部】女性	458	443	435	485	564	652	766	684	643	635	729

調査概要：設問構成

テーマ	No.	調査項目	調査対象		主な 分析 方針
			15～39歳	40～69歳	
基礎情報 過去の経験 等	SQ1	あなたの性別をお答えください。	●	●	(基礎)
	SQ2	あなたの年齢をお答えください。	●	●	(基礎)
	SQ3	あなたの現在の住まいを教えてください。	●	●	(基礎)
	Q1	あなたの現在の婚姻状況や恋人の有無についてお答えください。	●	●	(基礎)
	Q2	現在、あなたにはお子さんはいますか。	●	●	(基礎)
	Q3	あなたの現在の就業状況についてお答えください。	●	●	(基礎)
	Q4	あなたの令和6年の個人年収（総支給額）として当てはまるものをお選びください。	●	●	(基礎)
	Q5	あなたの令和6年の世帯年収（総支給額）として当てはまるものをお選びください。	●	●	(基礎)
	Q6	あなたは学校卒業後に就職してから、転職したことがありますか。	●	●	(基礎)
	Q7	あなたは学校卒業後に就職してから、大学、大学院、短大、専門学校などの学校において学び直しをしたことがありますか。あてはまるものを一つ選択してください。	●	●	(基礎)
	Q8	現在のあなたのお住まいの状況として当てはまるものをお選びください。	●	●	(基礎)
	Q9	あなたの中学校卒業時点のお住まい（住民票所在地）をお答えください。	●	●	(基礎)
	Q10	あなたが最後に卒業した学校、または現在在学中の学校はどれですか。最後に通った学校を中退された場合は、その前に卒業した学校をお答えください。	●	●	(基礎)
	Q11	あなたがおよそ15歳以下のこどもの頃のことについてお聞きます。次の1-6のそれぞれについて、当てはまるものをお選びください。	●	●	(基礎)
Q12	【15-20歳】あなたがおよそ15歳の頃の暮らし（経済的状況）は、この中のどれに当たるでしょうか。一般的な暮らしと比べてお答えください。 【21歳以上向け】あなたがおよそ15歳の頃の暮らし（経済的状況）は、この中のどれに当たるでしょうか。当時の一般的な暮らしと比べてお答えください。	●	●	(基礎)	
Q13	【15-20歳向け】親の姿はあなたが自身の将来になりたい姿を考えるうえでの参考になっていると思っていますか。 【21歳以上向け】あなたが20歳の頃、親の姿はあなたが自身の将来になりたい姿を考えるうえでの参考になっていたか。	●	●	年代別	
Q14	【15-20歳向け】あなたの身近に将来について相談することができる人はいますか。 【21歳以上向け】あなたが20歳の頃、将来について相談することができる人が身近にいましたか。	●	●	年代別	

調査概要：設問構成

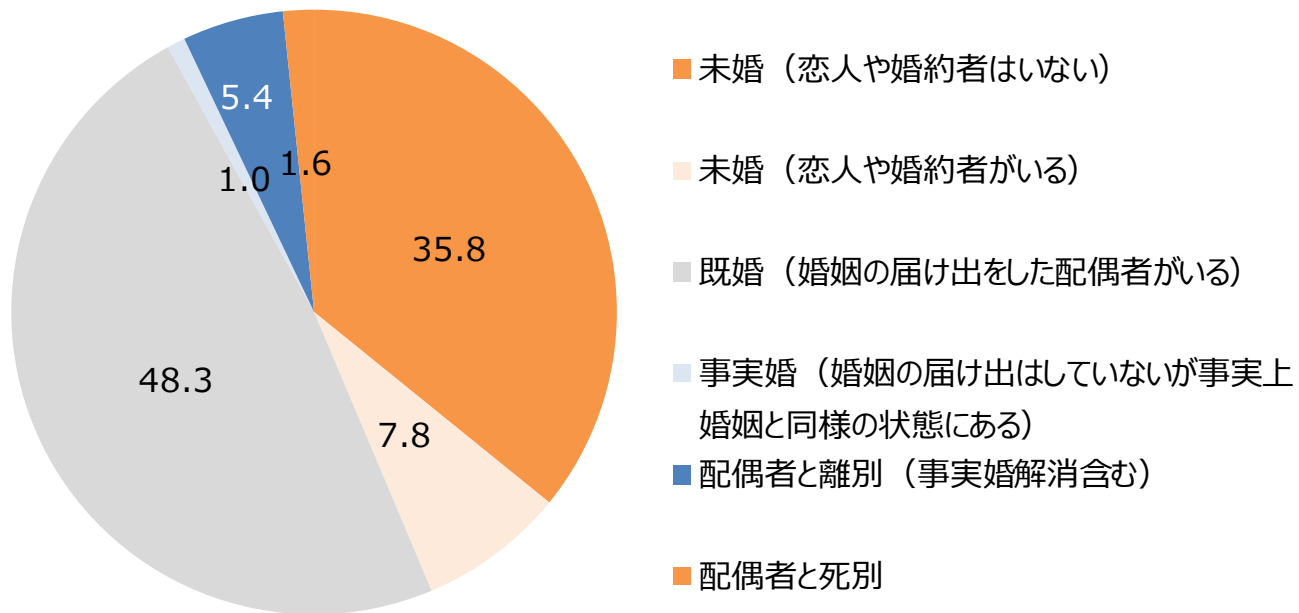
テーマ	No.	調査項目	調査対象		主な 分析 方針
			15～39歳	40～69歳	
社会の変化 とライフデザイン の必要性	Q15	以下の機会の必要性や価値観について、ご自身の考えとして該当するものをお選びください。	●	●	年代別
	Q16	以下の機会の必要性や価値観について、現在の若者とご自身の世代を比べた際の特徴として該当するものをお選びください。	●	●	年代別
	Q17	学び方・働き方・暮らし方等に関する実態や情報を知り、「ライフデザインを考える機会がある社会」に対する必要性が高いと思いますか。	●	●	全体 年代別
	Q18	あなた自身は、学び方・働き方・暮らし方等に関する実態や情報を知り、ライフデザインを考える機会が欲しいですか。	●	●	全体 年代別
	Q19	【15-20歳】あなたの結婚に対する考えは次のうちどれに当てはまりますか。 【21歳以上】あなたが20歳の頃の結婚に対する考えは次のうちどれに当てはまりますか。	●	●	年代別
	Q20	【15-20歳】あなたのこどもに対する考えは次のうちどれに当てはまりますか。 【21歳以上】あなたが20歳の頃のこどもに対する考えは次のうちどれに当てはまりますか。	●	●	年代別
	Q21	こどもを持ちたいと考えている、または持とうと考えた理由として、該当するものをすべてと最も当てはまるものをお選びください。	●	●	全体 年代別
	Q22	以下の環境変化のうち、どの変化が生じればこどもを持ちたいと思えるようになるか、該当するものをすべてと最も当てはまるものをお選びください。	●	●	全体 年代別
	Q23	【15-20歳】あなたのこどもを持った後の希望する働き方は次のうちどれに当てはまりますか。 【21歳以上】あなたが20歳の頃、こどもを持った後の希望する働き方は次のうちどれに当てはまりましたか。	●	●	年代別
	Q24	【15-20歳】あなたはこどもを持つことで幸せになれると感じますか。 【21歳以上】あなたが20歳の頃、あなたはこどもを持つことで幸せになれると感じていましたか。	●	●	年代別
	Q25	【15-20歳】あなたが最も重要と考えるライフイベント等をお選びください。 【21歳以上】あなたが20歳の頃、最も重要と考えていたライフイベント等をお選びください。	●	●	年代別
	Q26	結婚/妊娠/子育ての環境に関して、ご自身の世代や過去から現在を踏まえてのお考えとして該当するものをお選びください。	●	●	年代別

調査概要：設問構成

テーマ	No.	調査項目	調査対象		主な 分析 方針
			15～39歳	40～69歳	
ライフデザイン の経験等	Q27	あなたは、将来のライフイベント（進学、就職、結婚・育児、住宅の確保、資産の形成、老後など）について、自分の価値観に基づいた選択ができるように、自分の考え方や将来の見通しを整理したことがありますか。	●	●	全体
	Q28	ライフデザインを行ったことがない理由として該当するものをすべてお選びください。	●	●	全体
	Q29	あなたがライフデザインを行ったきっかけとして当てはまるものをお答えください。	●	●	全体
	Q30	あなたは、初めてライフデザインを行って以降、目標の実現に向けた具体的な計画を立てたうえで見直し等を行っていますか。	●	●	全体
	Q31	あなたの人生は、総じて初めて行ったライフデザインで計画した通りになっていますか。	●	●	全体
	Q32	次のどの点についてライフデザインを通じて計画した通りとなっていますか。	●	●	全体
	Q33	あなたは、計画通りにならなかった理由として当てはまるものをお選びください。	●	●	全体
	Q34	現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、いずれか1つだけ選んでください。	●	●	全体
	Q35	あなたはライフデザインを行ったことで、より納得感のある人生や幸せな人生を歩んでこれていると感じますか。	●	●	全体
ライフデザイン 支援のニーズ	Q36	あなたは周囲からライフデザインを行うための支援（ライフデザイン支援）をうけたいと思いますか。	●	-	全体
	Q37	あなたが周囲からライフデザイン支援をしてもらいたいと思う理由はなんですか。	●	-	全体
	Q38	あなたが周囲からライフデザイン支援をしてもらいたくない、または、どちらともいえないと思う理由はなんですか。	●	-	全体
	Q39	それぞれの時期で、ライフデザイン支援を通じてどのような情報が提供されることが望ましいですか。	●	-	全体
	Q40	それぞれの時期で、ライフデザイン支援として誰に相談に乗ってもらえることが望ましいですか。	●	-	全体
	Q41	大学・専門学校等の頃は、以下のようなライフデザイン支援の環境がある方が/あった方が良いと考えるかどうかお聞かせください。	●	-	全体
	Q42	社会人になってから、以下のようなライフデザイン支援の環境があった方が良いと考えるかどうかお聞かせください。	●	-	全体

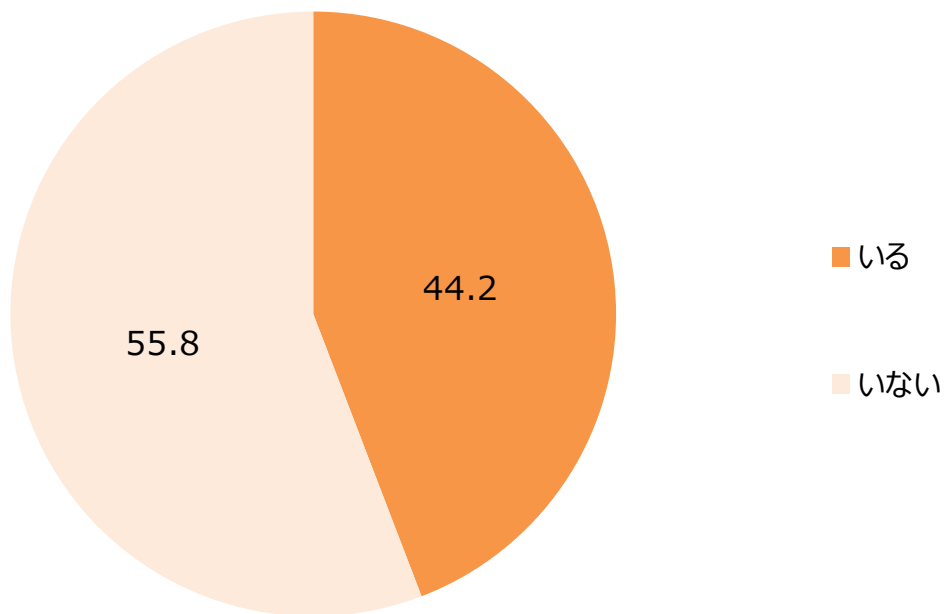
- 既婚と回答した人が最も多く48.3%、未婚（恋人や婚約者はいない）が次いで35.8%であった。

Q1 .あなたの現在の婚姻状況や恋人の有無についてお答えください。



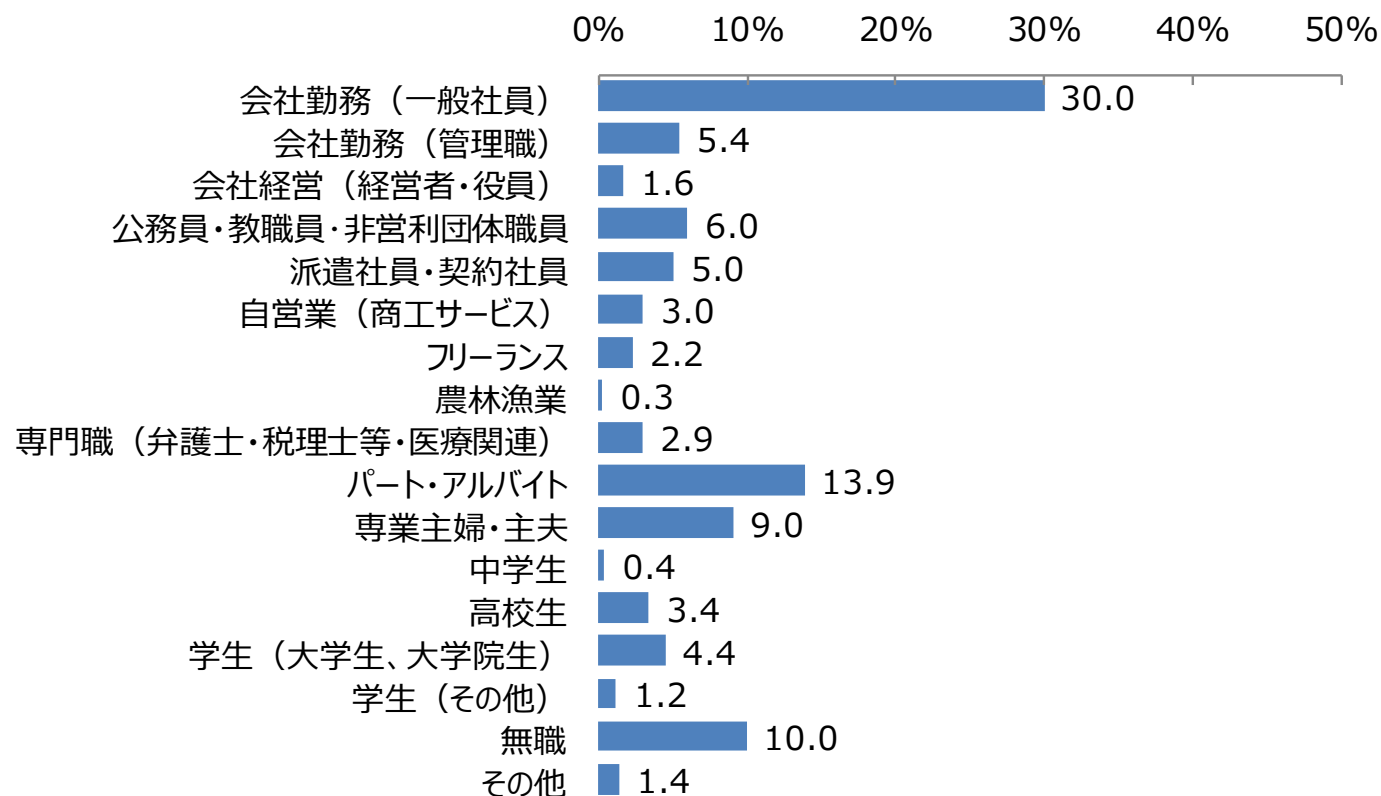
- こどもがいないと回答した人の割合は55.8%であった。

Q2.現在、あなたにはお子さんはいますか。



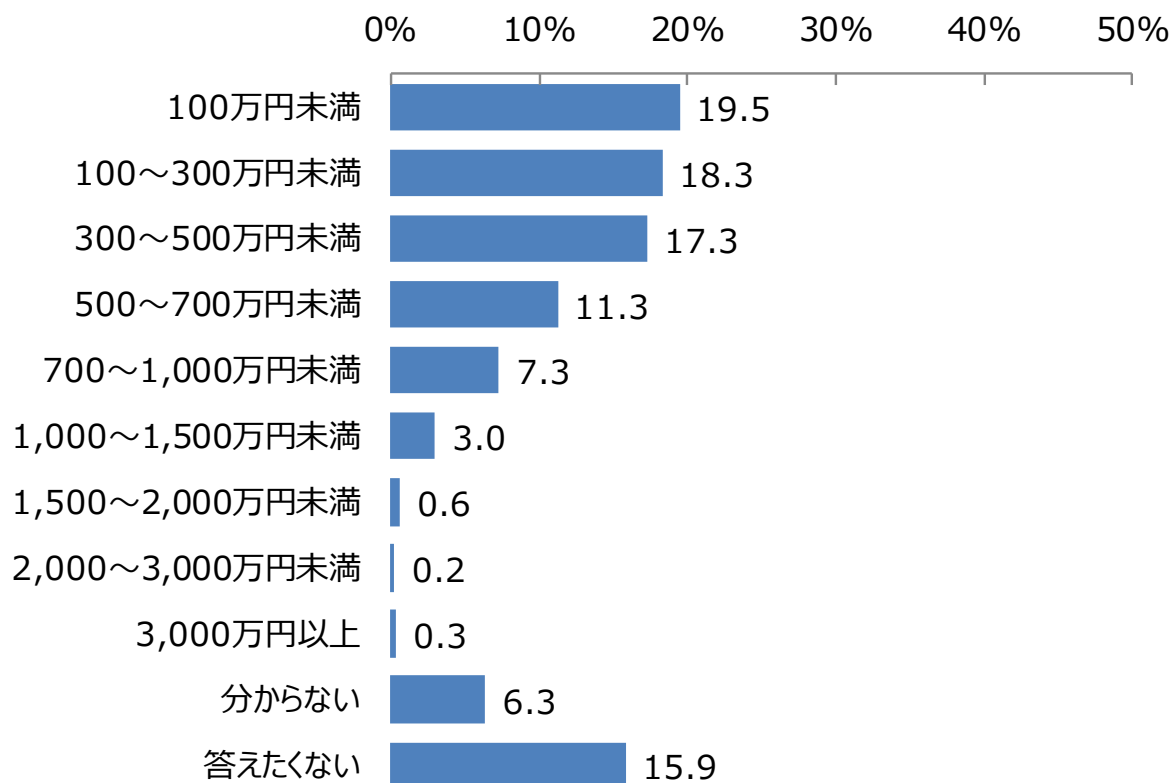
- 就業状況は会社勤務（一般社員）の人の割合が30%と最も多かった。

Q3.あなたの現在の就業状況についてお答えください。



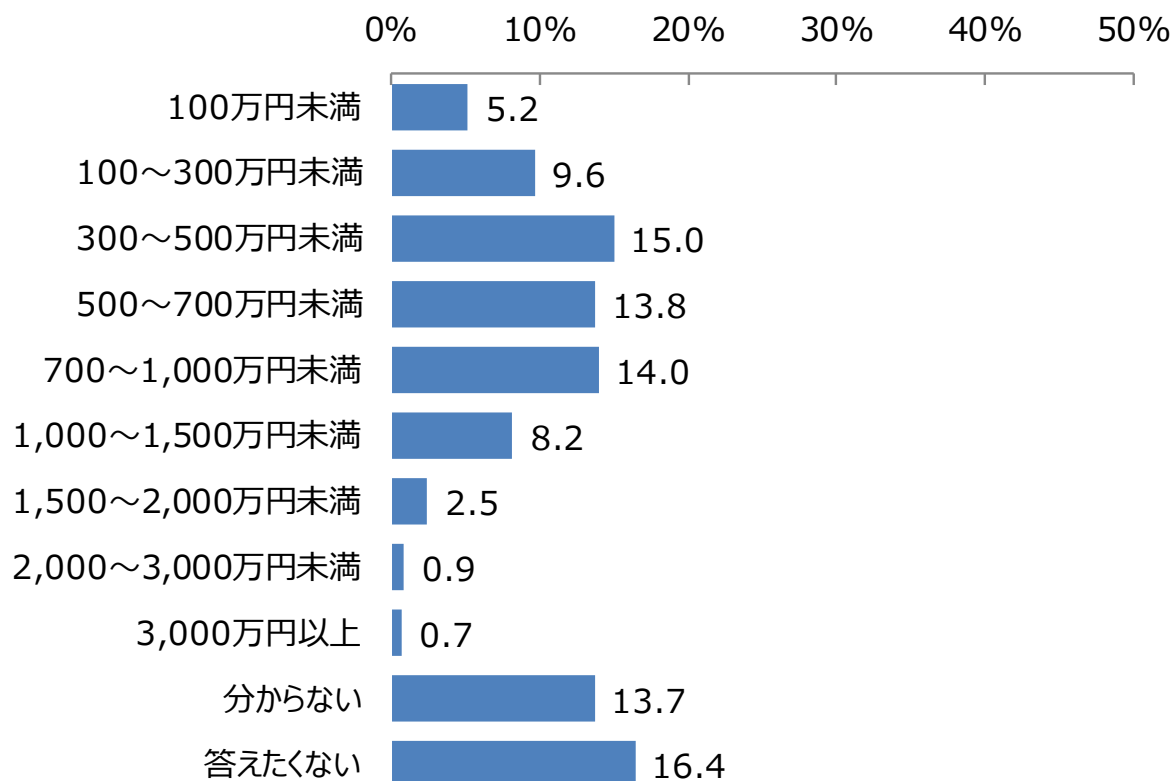
- 個人年収が500万円未満と回答した割合は半数を超えた。

Q4 .あなたの令和6年の個人年収（総支給額）として当てはまるものをお選びください。



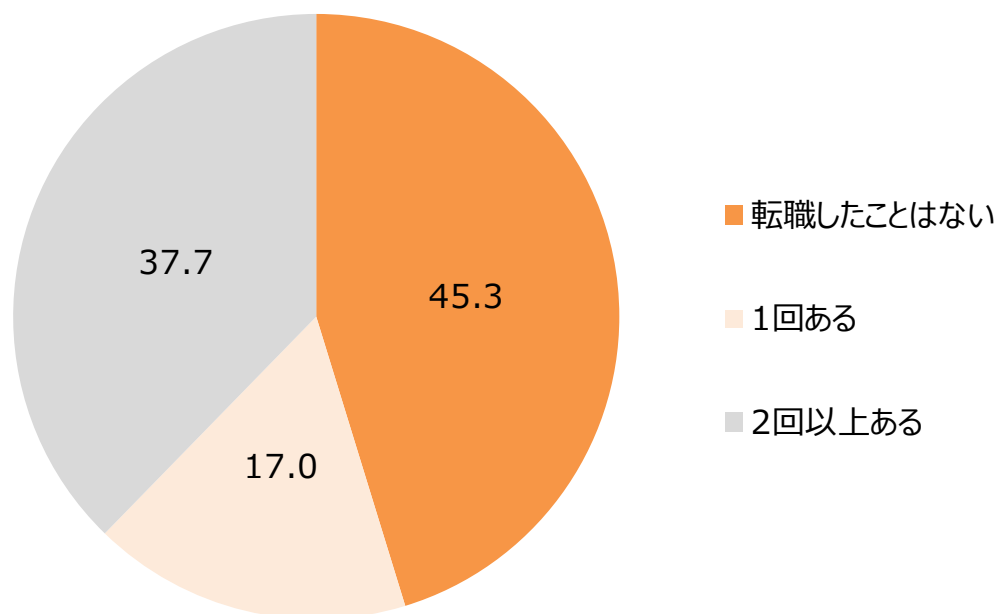
- 世帯年収が300～1,000万円未満と回答した人の割合が多かった。

Q5.あなたの令和6年の世帯年収（総支給額）として当てはまるものをお選びください。



- 転職したことがない人は45.3%を占めており、転職経験がある人の割合は、転職の回数が1回より、2回以上が多かった。

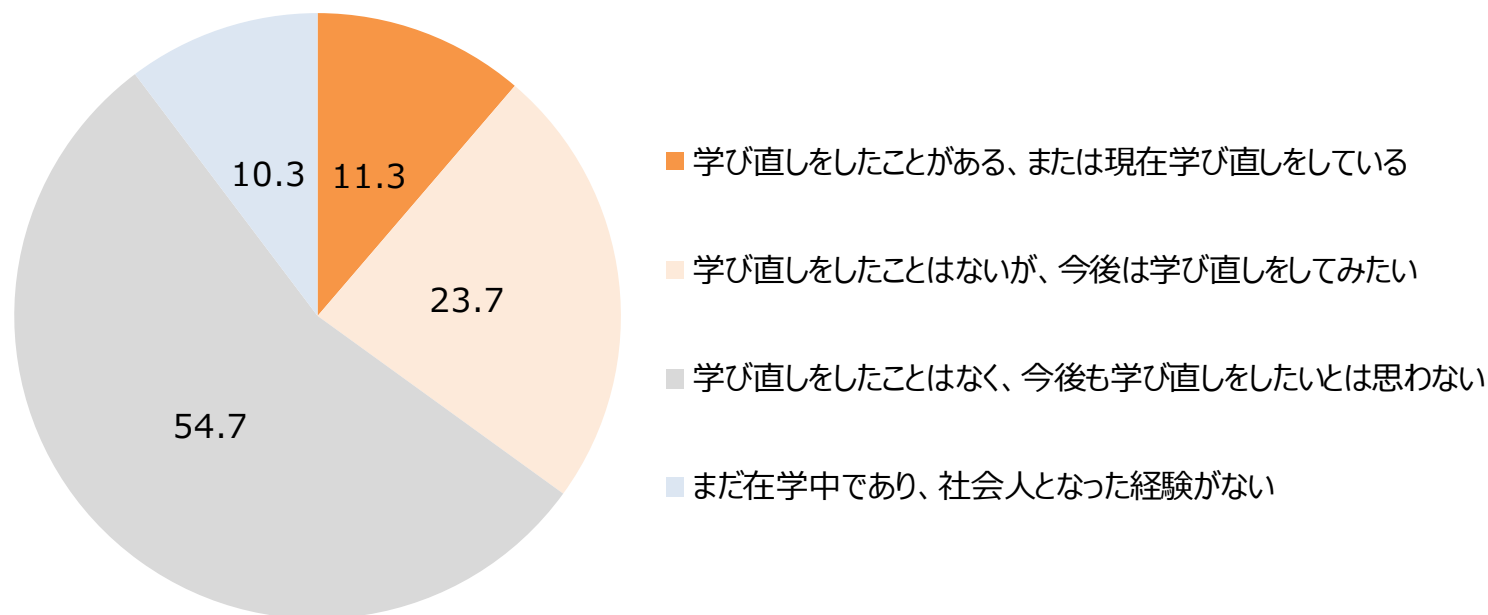
Q6.あなたは学校卒業後に就職してから、転職したことがありますか。



基礎情報等

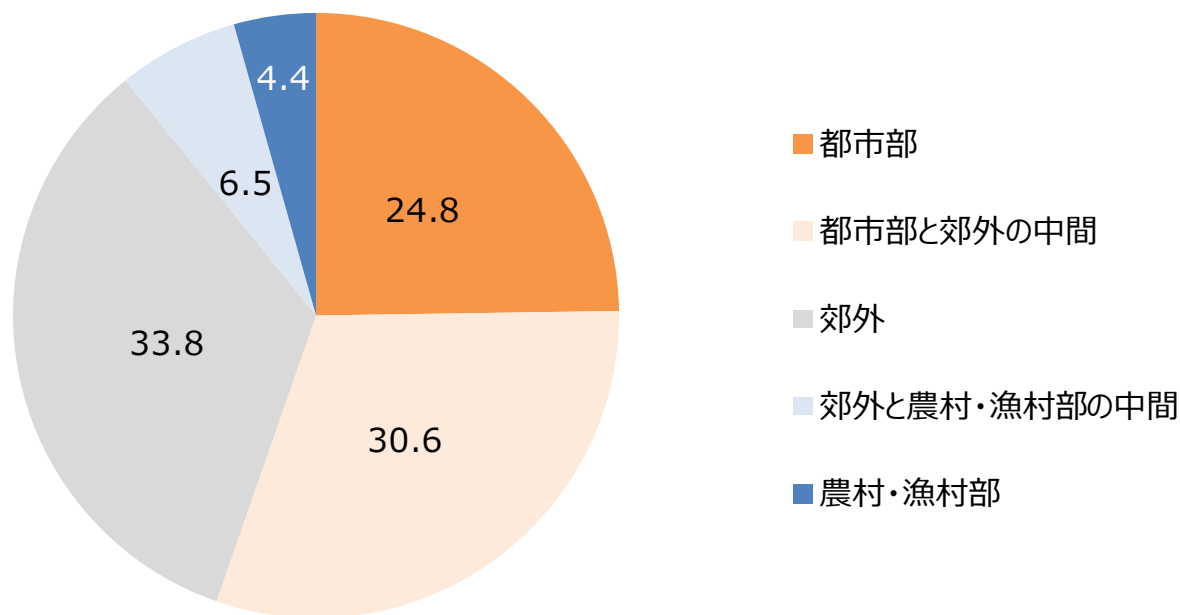
- 学び直しをしたことはなく、今後も学び直しをしたと思わない人の割合が54.7%であり、今後は学び直しを試みたいと考える人の割合が23.7%となっていた。

Q7.あなたは学校卒業後に就職してから、大学、大学院、短大、専門学校などの学校において学び直しをしたことがありますか。あてはまるものを一つ選択してください。



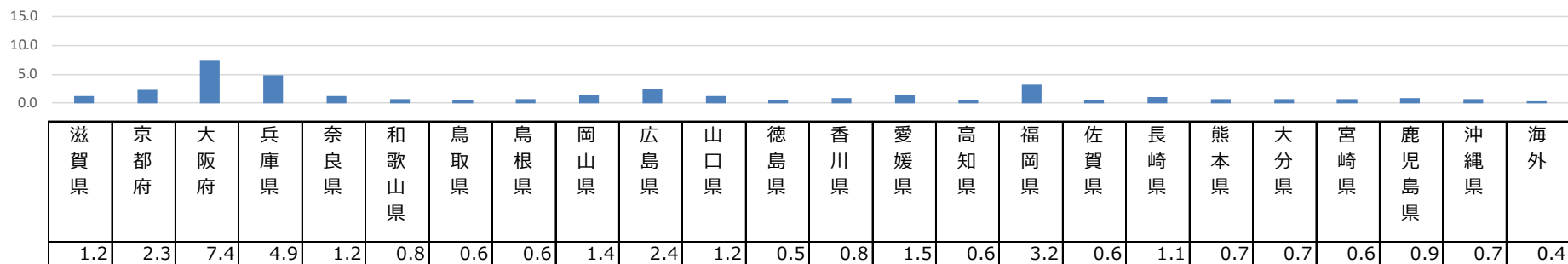
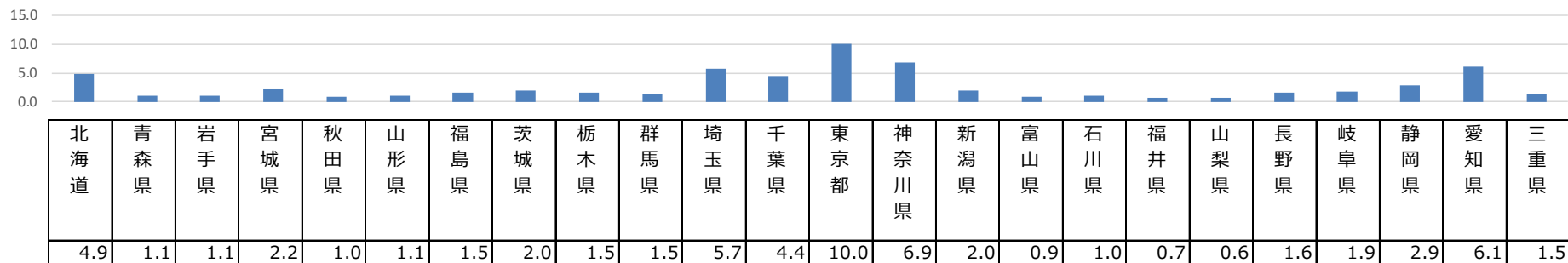
- 「都市部」又は「都市部と郊外の間」に住んでいると回答した人の割合は半数を超えた。

Q8.現在のあなたのお住まいの状況として当てはまるものをお選びください。



- 中学校時点の住まいは東京都が10%と最も多く、埼玉県、千葉県、神奈川県と併せて27%程度となっていた。

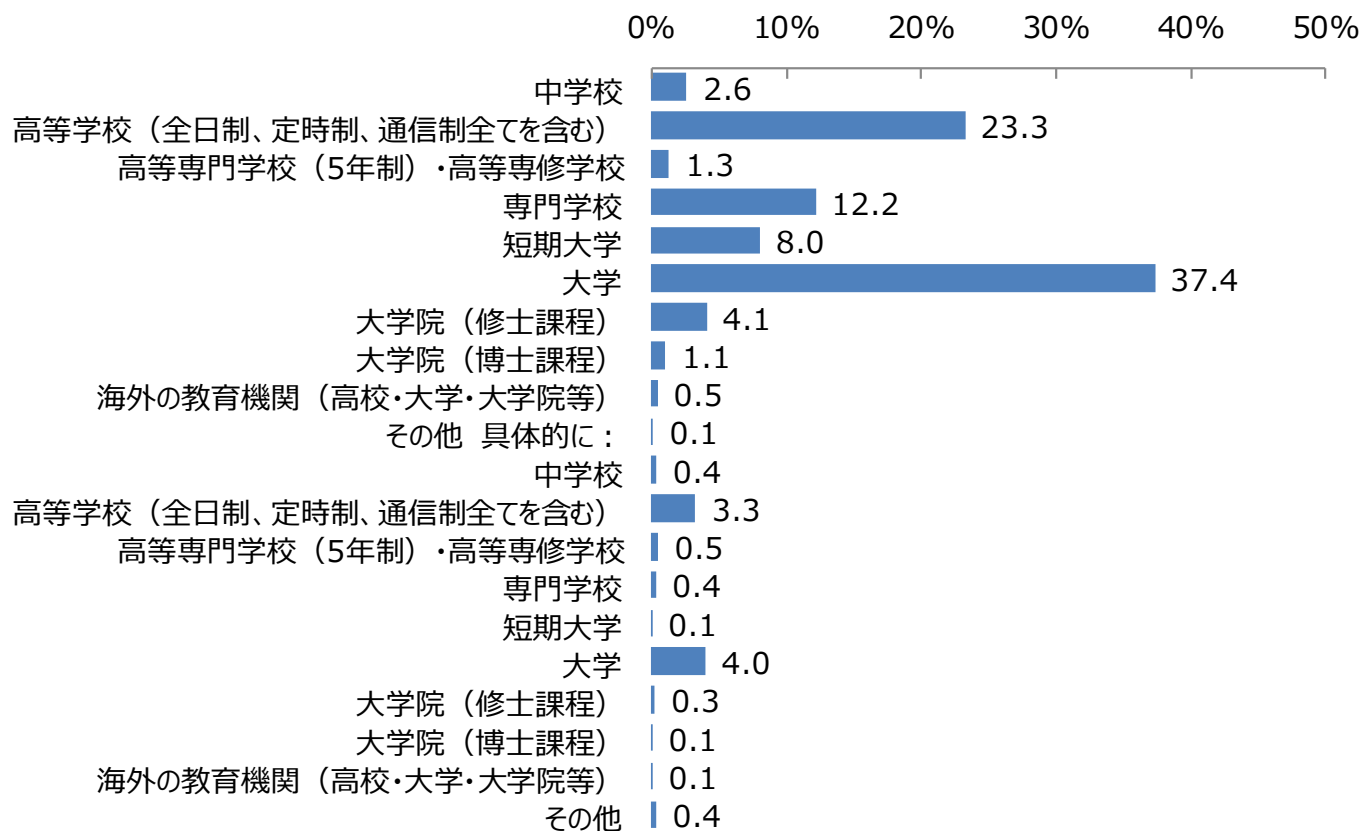
Q9.あなたの中学校卒業時点のお住まい（住民票所在地）をお答えください。



n=18,760 回答対象：全員

- 最終学歴等は大学が最も多く37.4%、次いで高等学校が23.3%であった。

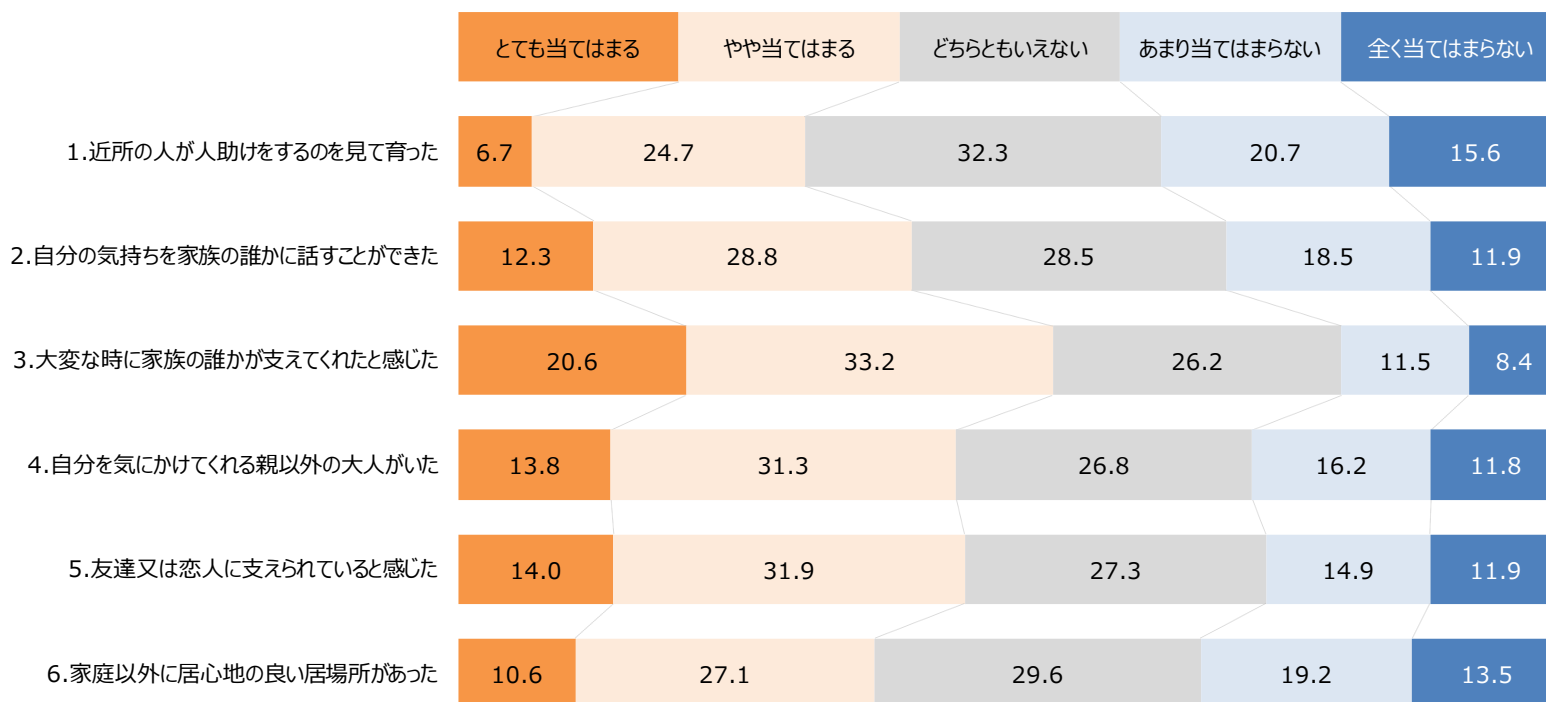
Q10.あなたが最後に卒業した学校、または現在在学中の学校はどれですか。最後に通った学校を中退された場合は、その前に卒業した学校をお答えください。



n=18,760 回答対象：全員

- こどもの頃の各体験について、30-50%程度がとても当てはまる/やや当てはまると回答した。

Q11.あなたがおよそ15歳以下のこどもの頃のことについてお聞きします。次の1-6のそれぞれについて、当てはまるものをお選びください。



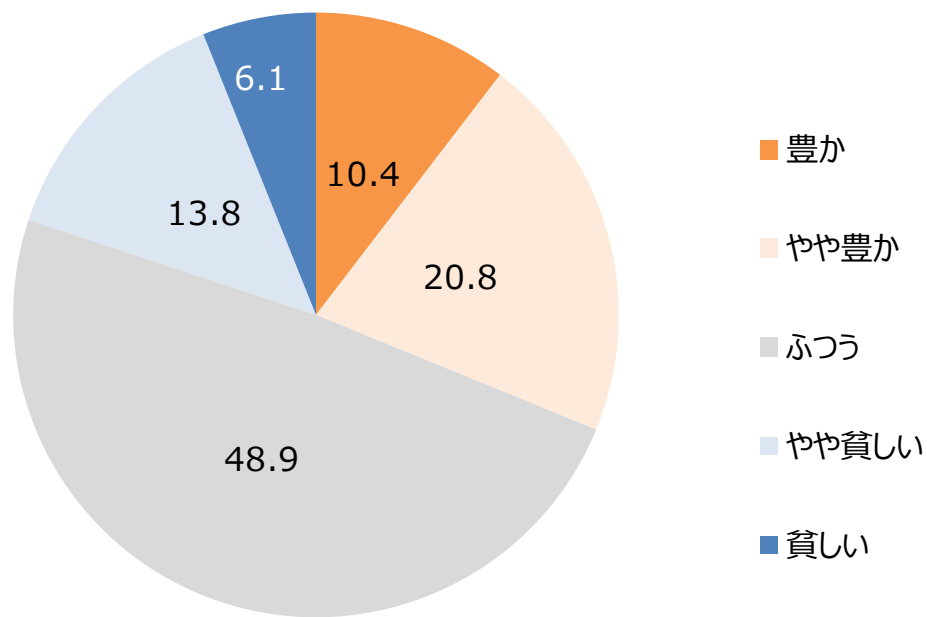
n=18,760 回答対象：全員

基礎情報等

- 経済状況について、普通と回答した人の割合が48.9%であり、豊か/やや豊かと回答した人の割合が、貧しい/やや貧しいと回答した人の割合よりも多かった。

Q12.あなたがおよそ15歳の頃の暮らし（経済的状況）は、この中のどれに当たるでしょうか。一般的な暮らしと比べてお答えください。【15-20歳】

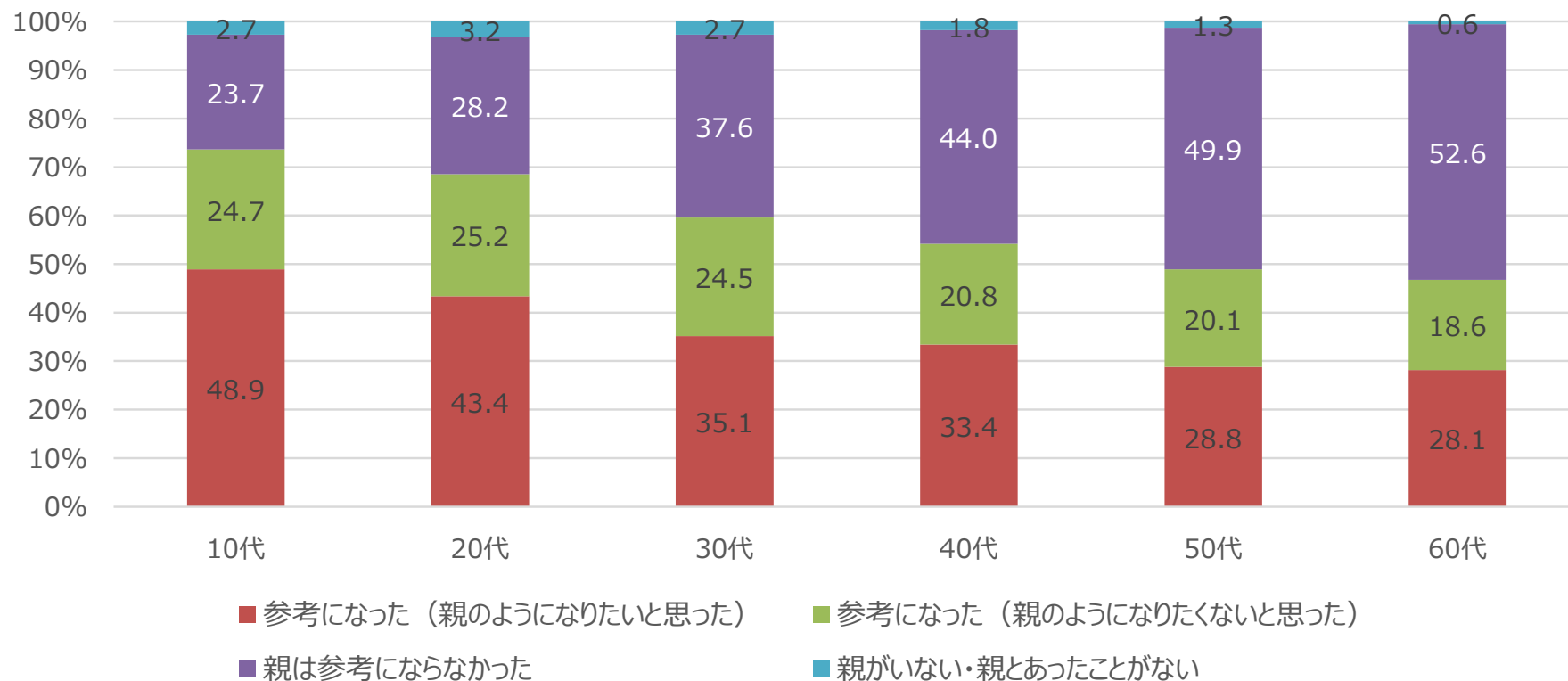
Q12.あなたがおよそ15歳の頃の暮らし（経済的状況）は、この中のどれに当たるでしょうか。当時の一般的な暮らしと比べてお答えください。【21歳以上向け】



- 年代が下がるにつれ、自分が20歳の頃は「親が参考になった（親のようになりたいと思った）」という人の割合が増えていた。

Q13. 親の姿はあなたが自身の将来になりたい姿を考えるうえでの参考になっていると思っていますか。【15-20歳向け】

Q13. あなたが20歳の頃、親の姿はあなたが自身の将来になりたい姿を考えるうえでの参考になっていたと思っていましたか。【21歳以上向け】

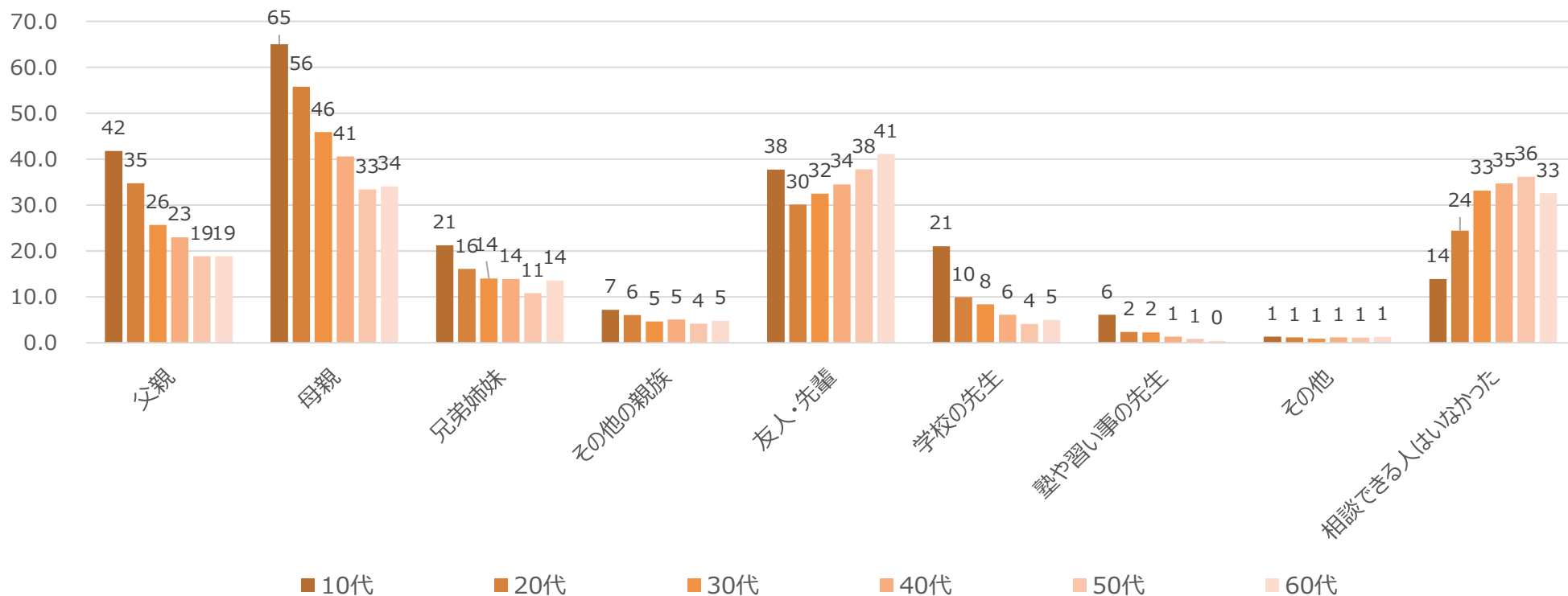


n=18,760 回答対象：全員

- 将来について相談できる相手は親や友人などが中心となっている。
- 年代が下がるにつれ、20歳の頃の相談相手は親（特に母親）と回答した人の割合が増えている。

Q14.あなたの身近に将来について相談することができる人はいますか。【15-20歳向け】

Q14.あなたが20歳の頃、将来について相談することができる人が身近にいましたか。【21歳以上向け】



n=18,760 回答対象：全員

社会の変化とライフデザインの必要性

社会の変化の実態

- 以下の「機会の必要性や価値観」について年代別の考えを確認した。

Q15.以下の機会の必要性や価値観について、ご自身の考えとして該当するものをお選びください【15～24歳】

Q16.以下の機会の必要性や価値観について、現在の若者とご自身の世代を比べた際の特徴として該当するものをお選びください。※各年代ご自身が20歳だった頃を振り返ってご回答ください。【25～69歳】

Q-1	お金や経済の仕組みなど社会の仕組みを知る機会の必要性を感じる
Q-2	地域の魅力や地域の産業について知り、地域の人と接する機会の必要性を感じる
Q-3	家族やこどもを持つことの実際を知る機会の必要性を感じる
Q-4	働き方に関する様々な制度（フレックスタイム制、在宅勤務制、育児・介護休業など）を理解し、自らの働き方を考える機会の必要性を感じる
Q-5	様々な暮らし方（生活拠点を複数持つなど）の選択肢を知りたいと感じる
Q-6	人生の選択肢が増えて、自ら主体的に人生を設計しなければならないと感じる
Q-7	子育て支援サービス（保育所等や地域の子育て支援サービス、ベビーシッターなど）を利用しやすくなっていると感じる
Q-8	仕事において、自らのキャリアの成長が重要であると感じる
Q-9	仕事のやりがいや社会的意義より、収入の多さの方が重要であると感じる
Q-10	仕事とプライベート（家族や趣味の時間）の両立できる環境が重要であると感じる

社会の変化の実態

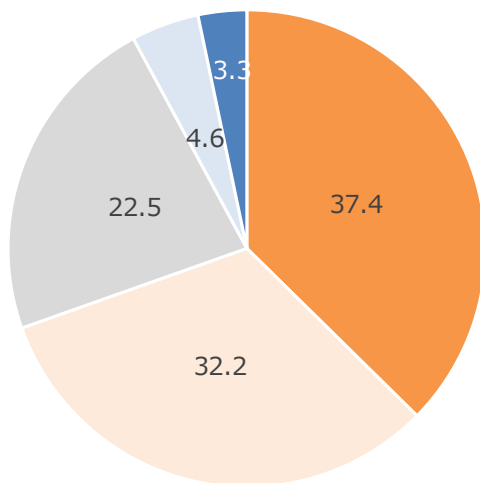
Q15,16

- 当事者（15-24歳）の概ね69%が、社会の仕組みを知る機会の必要性を感じる/やや感じると回答。25歳以上の総じて半数以上の人々が、自分が20歳の頃と比べ、現在の若者にその必要性が高まっていると感じている。

Q-1. お金や経済の仕組みなど社会の仕組みを知る機会の必要性を感じる【15～24歳】

Q-1. 私が20歳だった頃よりも現在の若者は、お金や経済の仕組みなど社会の仕組みを知る機会の必要性が高いと感じる【25～69歳】

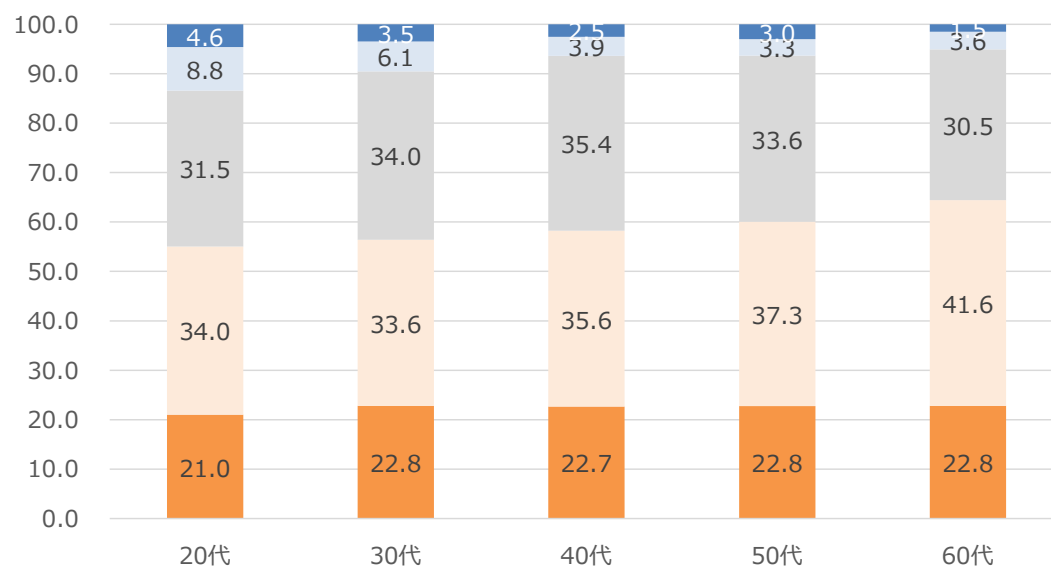
当事者（15～24歳）の回答



■感じる ■やや感じる ■どちらともいえない ■やや感じない ■感じない

n=3,892 回答対象：年齢15～24歳

25～69歳の年代別回答



■感じる ■やや感じる ■どちらともいえない ■やや感じない ■感じない

n=15,012 回答対象：年齢25～69歳

社会の変化の実態

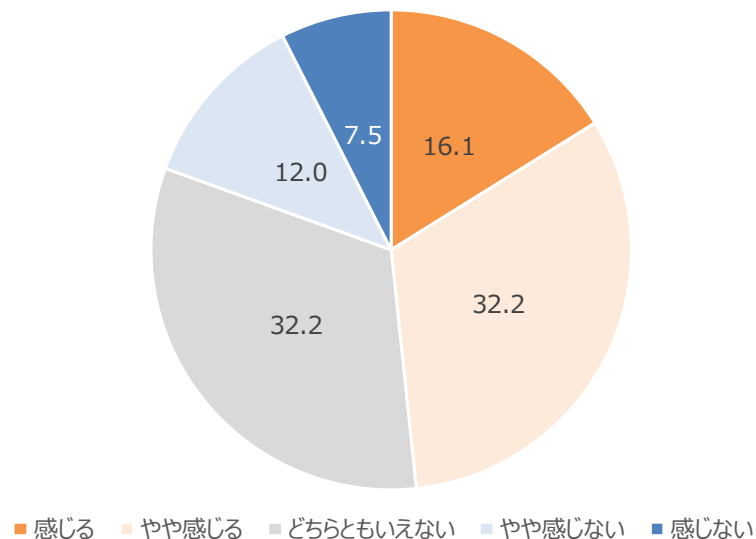
Q15,16

- 当事者（15-24歳）の概ね48%が、地域の魅力等を知り、地域の人と接する機会の必要性を感じる/やや感じると回答。25歳以上の総じて30%程度の人が、自分が20歳の頃に比べ、現在の若者にその必要性が高まっていると感じている。

Q-2.地域の魅力や地域の産業について知り、地域の人と接する機会の必要性を感じる【15～24歳】

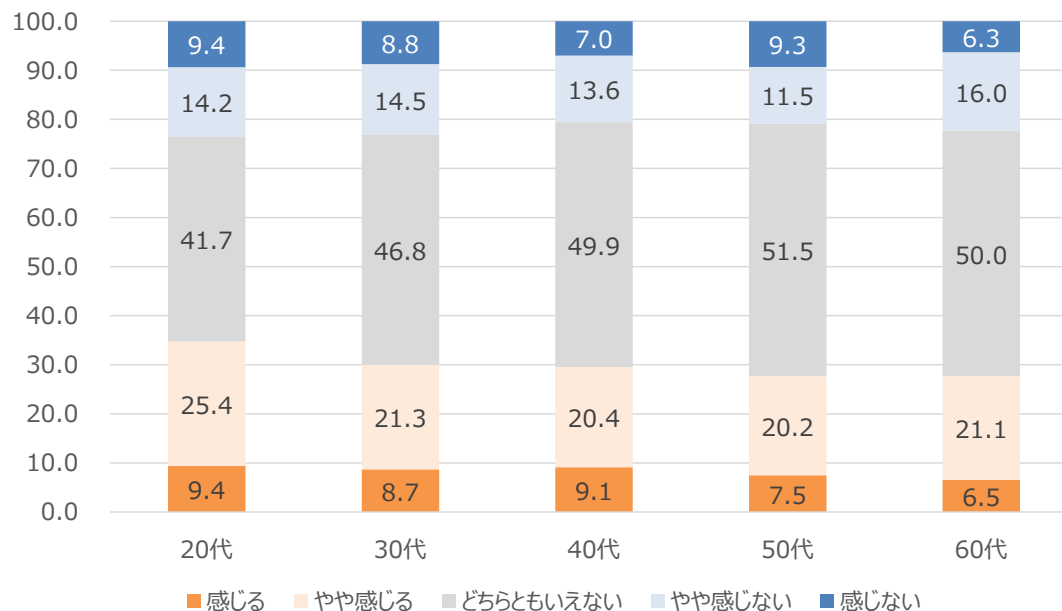
Q-2.私が20歳だった頃よりも現在の若者は、地域の魅力や地域の産業について知り、地域の人と接する機会の必要性が高いと感じる【25～69歳】

当事者（15～24歳）の回答



n=3,892 回答対象：年齢15～24歳

25～69歳の年代別回答



n=15,012 回答対象：年齢25～69歳

社会の変化の実態

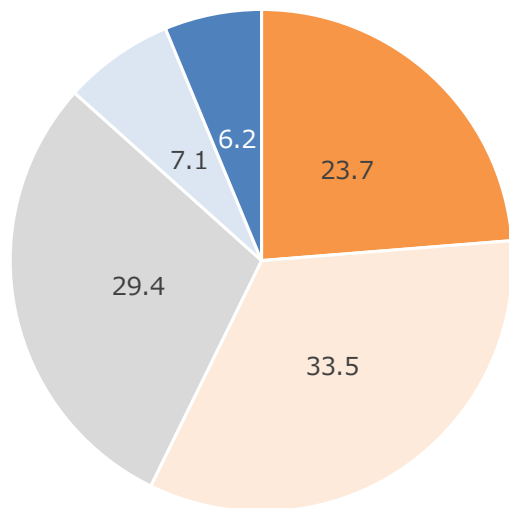
Q15,16

- 当事者（15-24歳）の概ね58%が、家族や子どもを持つことの実際を知る機会の必要性を感じる/やや感じると回答。25歳以上の総じて40%程度の人が、自分が20歳の頃と比べ、現在の若者にその必要性が高まっていると感じている。

Q-3. 家族や子どもを持つことの実際を知る機会の必要性を感じる【15～24歳】

Q-3. 私が20歳だった頃よりも現在の若者は、家族や子どもを持つことの実際を知る機会の必要性を感じる【25～69歳】

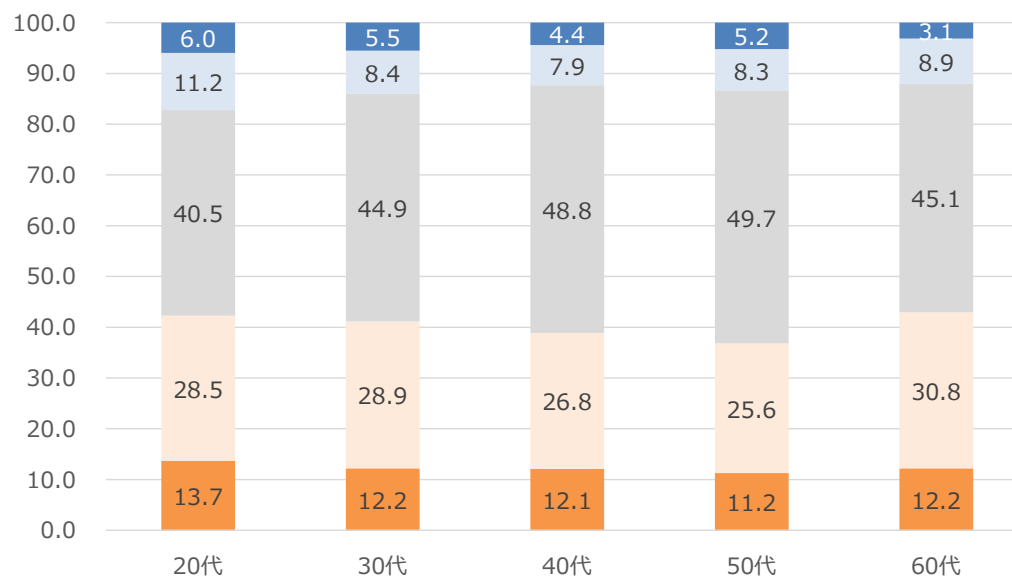
当事者（15～24歳）の回答



■感じる ■やや感じる ■どちらともいえない ■やや感じない ■感じない

n=3,892 回答対象：年齢15～24歳

25～69歳の年代別回答



■感じる ■やや感じる ■どちらともいえない ■やや感じない ■感じない

n=15,012 回答対象：年齢25～69歳

社会の変化の実態

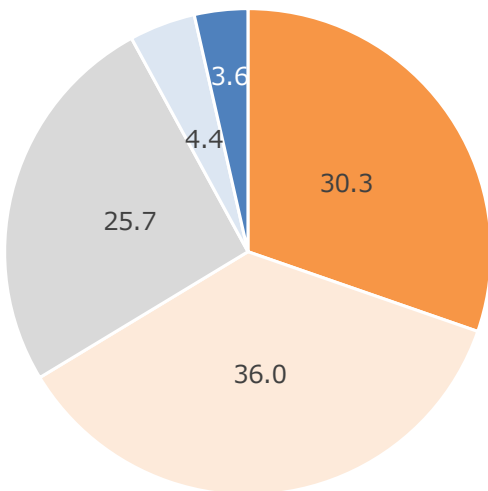
Q15,16

- 当事者（15-24歳）の概ね66%が、働き方に関する様々な制度を理解し、自らの働き方を考える機会が必要性を感じる/やや感じると回答。25歳以上は年代が上がるにつれ、自分の20歳の頃と比べ、現在の若者にその必要性が高まっていると感じている割合が高くなっている。

Q-4.働き方に関する様々な制度（フレックスタイム制、在宅勤務制、育児・介護休業など）を理解し、自らの働き方を考える機会の必要性を感じる【15～24歳】

Q-4.私が20歳だった頃よりも現在の若者は、働き方に関する様々な制度（フレックスタイム制、在宅勤務制、育児・介護休業など）を理解し、自らの働き方を考える機会が必要性が高いと感じる【25～69歳】

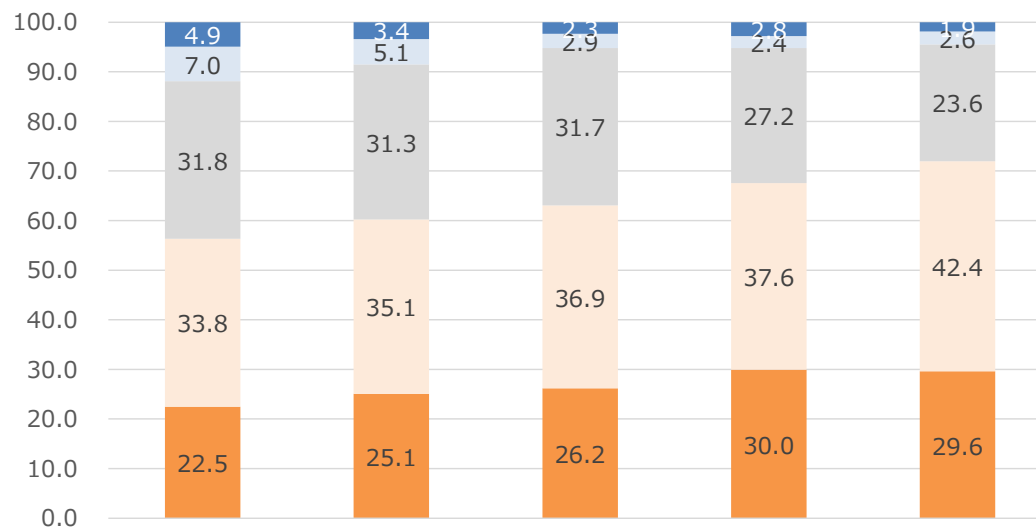
当事者（15～24歳）の回答



■感じる ■やや感じる ■どちらともいえない ■やや感じない ■感じない

n=3,892 回答対象：年齢15～24歳

25～69歳の年代別回答



■感じる ■やや感じる ■どちらともいえない ■やや感じない ■感じない

n=15,012 回答対象：年齢25～69歳

社会の変化の実態

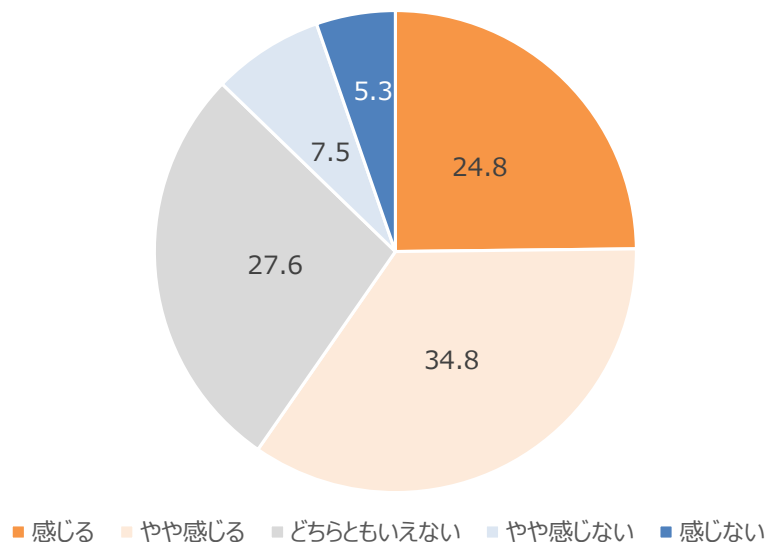
Q15,16

- 当事者（15-24歳）の概ね60%が、様々な暮らし方の選択肢を知りたいと感じる/やや感じると回答。25歳以上の年代の総じて半数程度の人が、自分の20歳の頃と比べ、現在の若者は知りたいという志向が強まっていると感じている。

Q-5.様々な暮らし方（生活拠点を複数持つなど）の選択肢を知りたいと感じる【15～24歳】

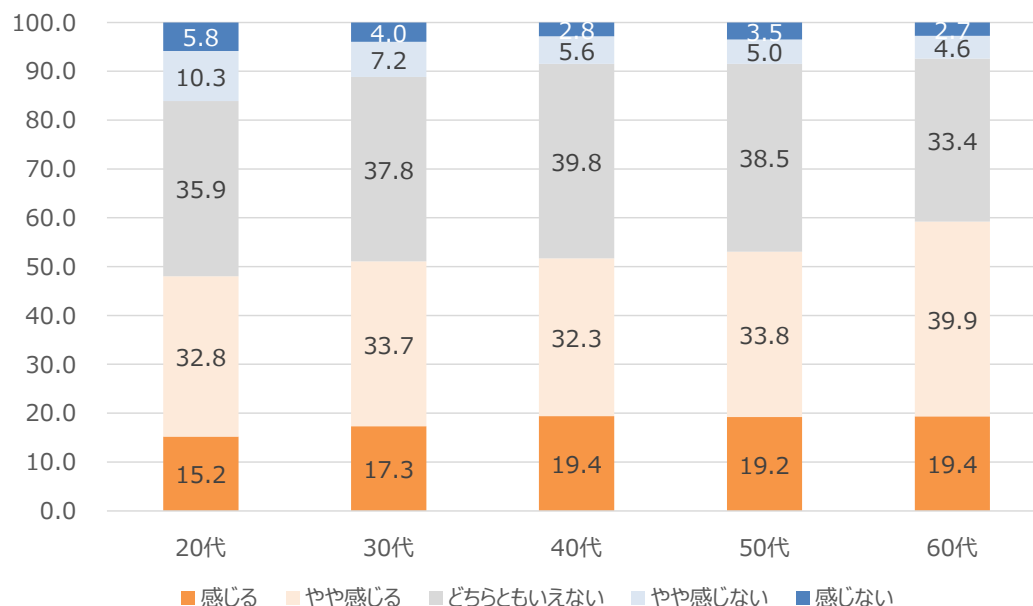
Q-5.私が20歳だった頃よりも現在の若者は、様々な暮らし方（生活拠点を複数持つなど）の選択肢を知りたいという志向が強いと感じる【25～69歳】

当事者（15～24歳）の回答



n=3,892 回答対象：年齢15～24歳

25～69歳の年代別回答



n=15,012 回答対象：年齢25～69歳

社会の変化の実態

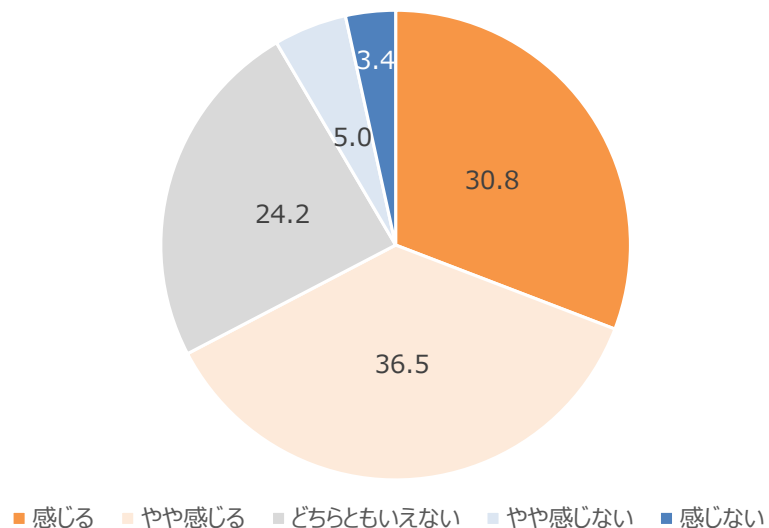
Q15,16

- 当事者（15-24歳）の概ね68%が、人生の選択肢が増えて、自ら主体的に人生を設計しなければならないと感じる/やや感じる と回答。25歳以上の年代の総じて半数以上の人 が、自分が20歳の頃と比べ、現在の若者は主体的に人生を設計しなければならないと感じている。

Q-6.人生の選択肢が増えて、自ら主体的に人生を設計しなければならないと感じる【15～24歳】

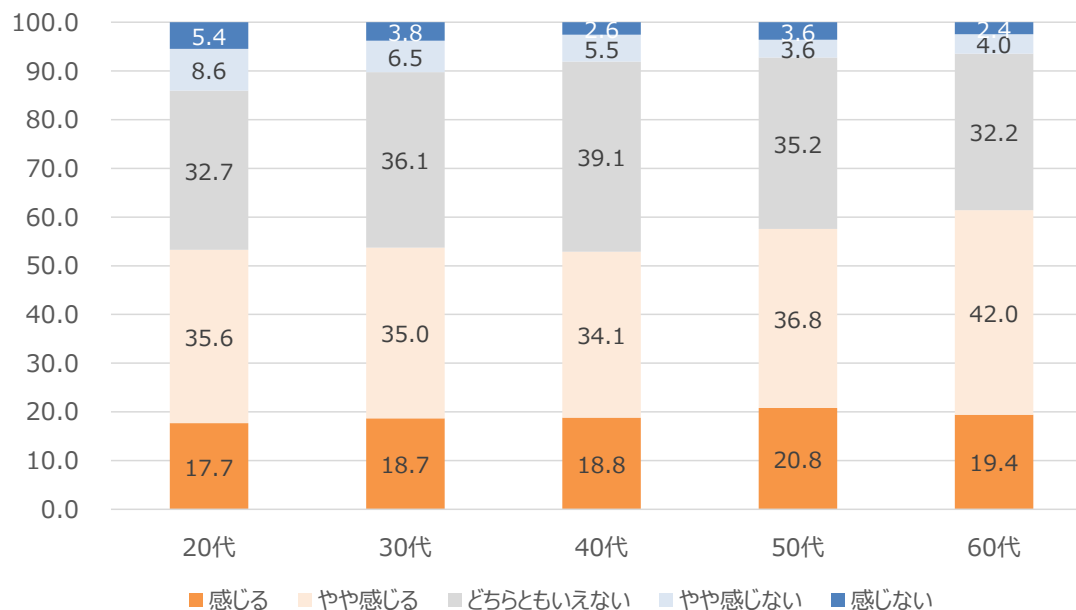
Q-6.私が20歳だった頃よりも現在の若者は、人生の選択肢が増えて、自ら主体的に人生を設計しなければならないと感じる【25～69歳】

当事者（15～24歳）の回答



n=3,892 回答対象：年齢15～24歳

25～69歳の年代別回答



n=15,012 回答対象：年齢25～69歳

社会の変化の実態

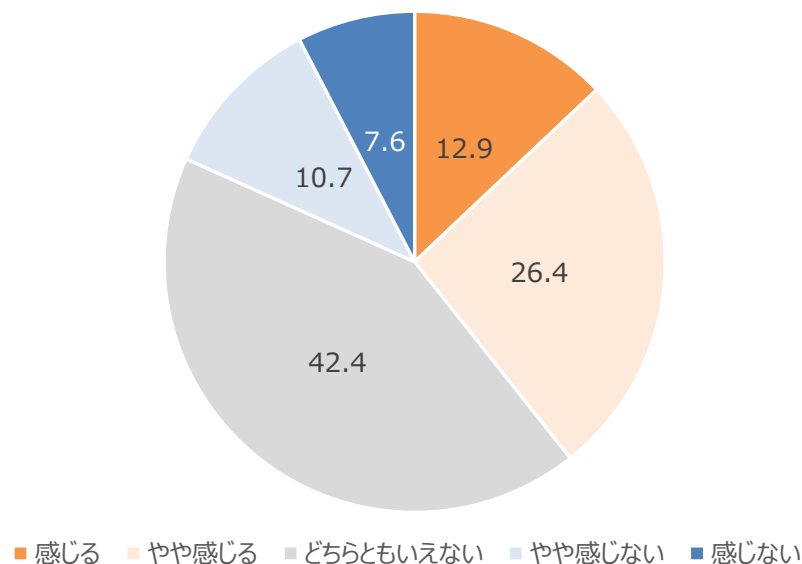
Q15,16

- 当事者（15-24歳）の概ね39%が、子育て支援サービスを利用しやすくなっていると感じる/やや感じるという回答。25歳以上は年代が上がるにつれ、自分の20歳の頃と比べ、現在の若者はサービスを利用しやすくなっていると感じている割合が高くなっている。

Q-7.私が20歳だった頃よりも現在の若者は、子育て支援サービス（保育所等や地域の子育て支援サービス、ベビーシッターなど）を利用しやすくなっていると感じる【25～69歳】

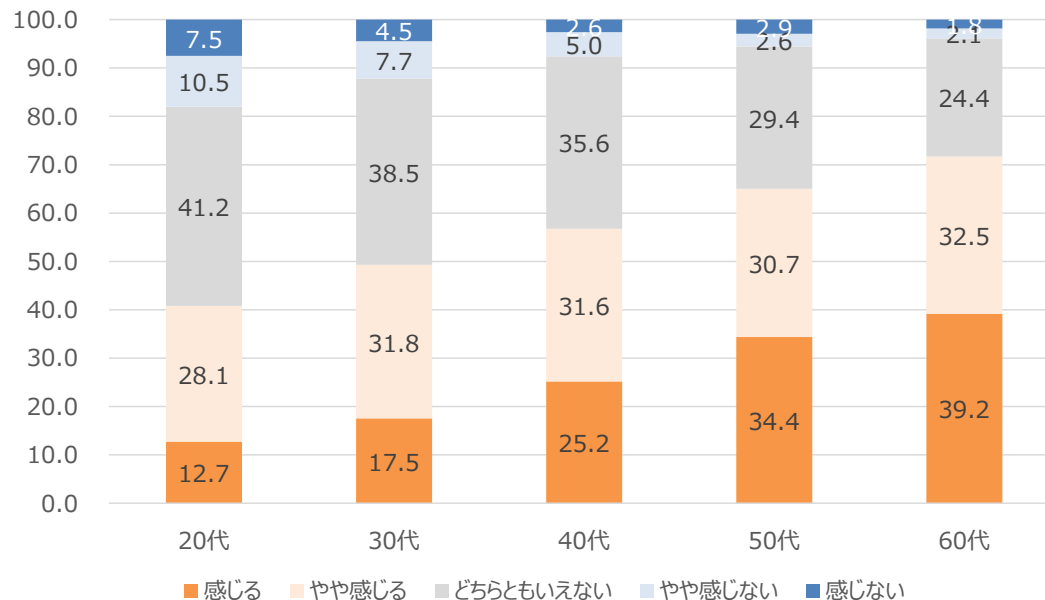
Q-7.子育て支援サービス（保育所等や地域の子育て支援サービス、ベビーシッターなど）を利用しやすくなっていると感じる【15～24歳】

当事者（15～24歳）の回答



n=3,892 回答対象：年齢15～24歳

25～69歳の年代別回答



n=15,012 回答対象：年齢25～69歳

社会の変化の実態

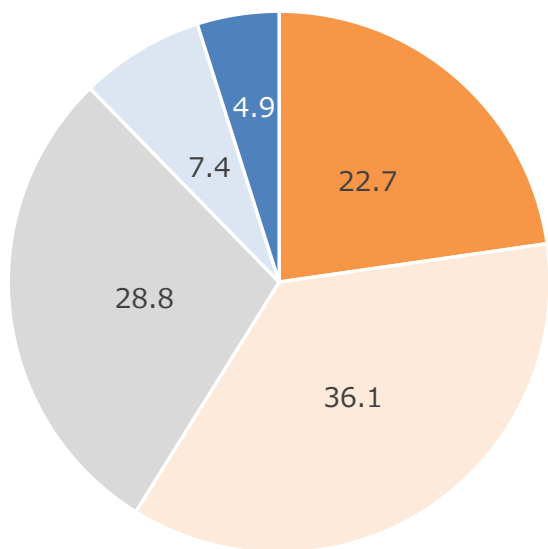
Q15,16

- 当事者（15-24歳）の概ね59%が、仕事において、自らのキャリアの成長が重要であるという志向が強いと感じると回答。25歳以上の年代の総じて40%の人が、自分が20歳の頃に比べ、現在の若者はその志向が強まっていると感じている。

Q-8.私が20歳だった頃よりも現在の若者は、仕事において、自らのキャリアの成長が重要であるという志向が強いと感じる【25～69歳】

Q-8.仕事において、自らのキャリアの成長が重要であるという志向が強いと感じる【15～24歳】

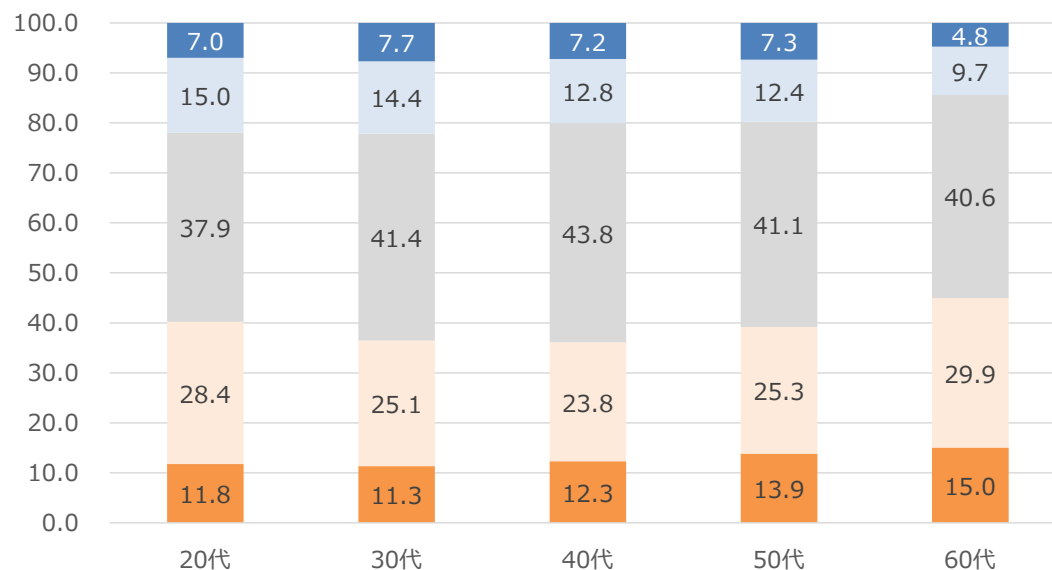
当事者（15～24歳）の回答



■ 感じる ■ やや感じる ■ どちらともいえない ■ やや感じない ■ 感じない

n=3,892 回答対象：年齢15～24歳

25～69歳の年代別回答



■ 感じる ■ やや感じる ■ どちらともいえない ■ やや感じない ■ 感じない

n=15,012 回答対象：年齢25～69歳

社会の変化の実態

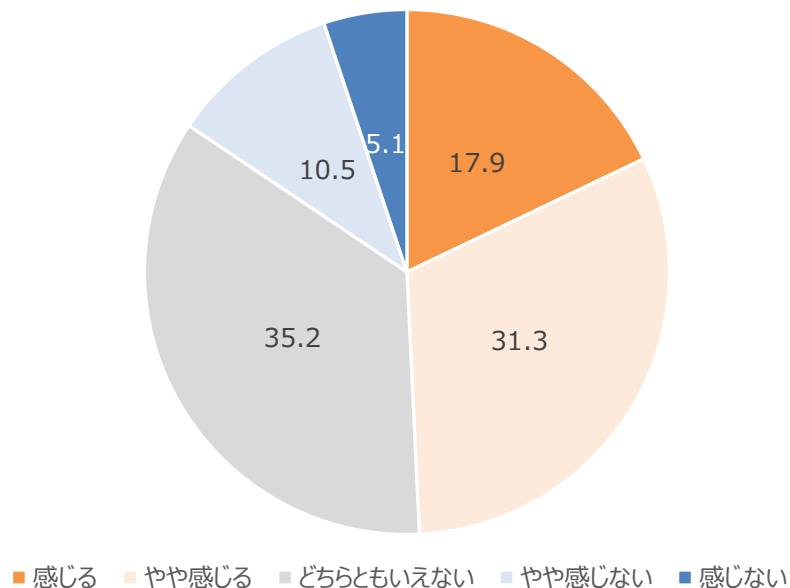
Q15,16

- 当事者（15-24歳）の概ね49%が、仕事のやりがいや社会的意義より、収入の多さの方が重要であると答える。25歳以上の年代の総じて40%の人が、自分が20歳の頃に比べ、現代の若者はその志向が強まっていると感じている。

Q-9.私が20歳だった頃よりも現在の若者は、仕事のやりがいや社会的意義より、収入の多さの方が重要であるという志向が強いと感じる【25～69歳】

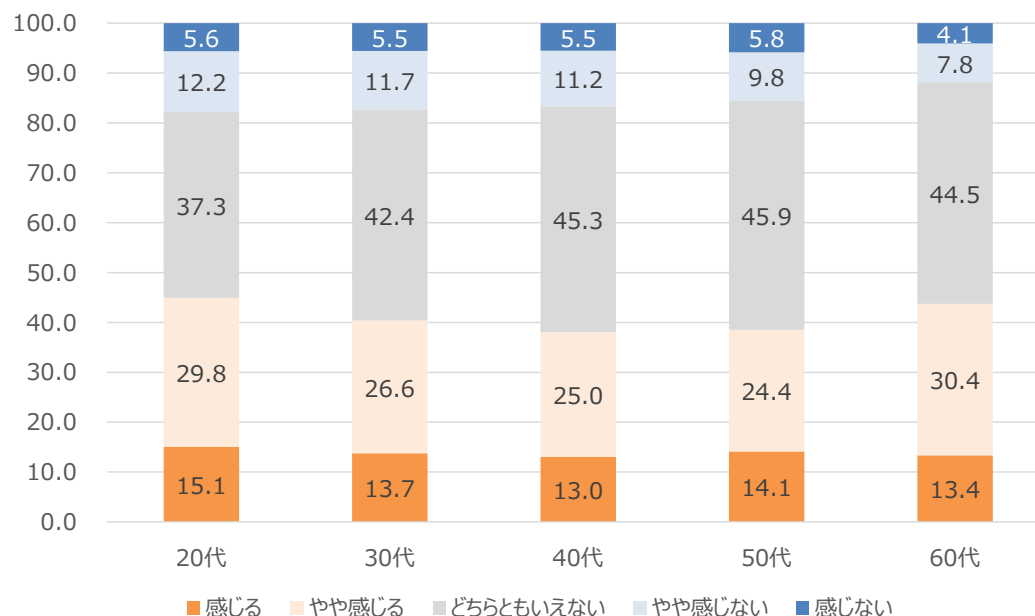
Q-9.仕事のやりがいや社会的意義より、収入の多さの方が重要であるという志向が強いと感じる【15～24歳】

当事者（15～24歳）の回答



n=3,892 回答対象：年齢15～24歳

25～69歳の年代別回答



n=15,012 回答対象：年齢25～69歳

社会の変化の実態

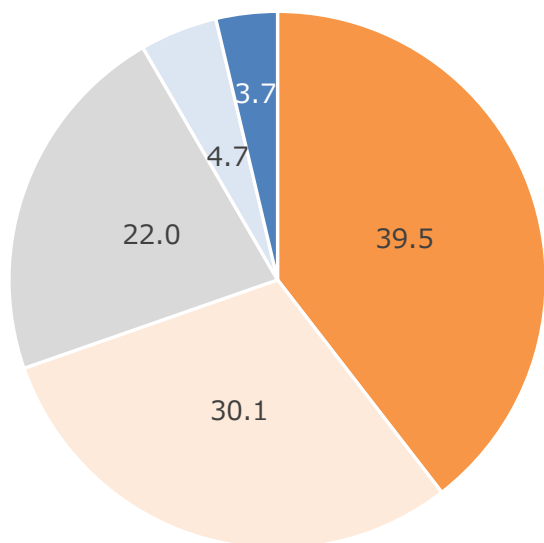
Q15,16

- 当事者（15-24歳）の概ね70%が、両立できる環境が重要であるという志向が強いと感じる/やや感じるという回答。25歳以上は年代が上がるにつれ、自分が20歳の頃に比べ、現在の若者はその志向が強まっていると感じている割合が高くなっている。

Q-10.私が20歳だった頃よりも現在の若者は、仕事とプライベート（家族や趣味の時間）の両立できる環境が重要であるという志向が強いと感じる【25～69歳】

Q-10.仕事とプライベート（家族や趣味の時間）の両立できる環境が重要であるという志向が強いと感じる【15～24歳】

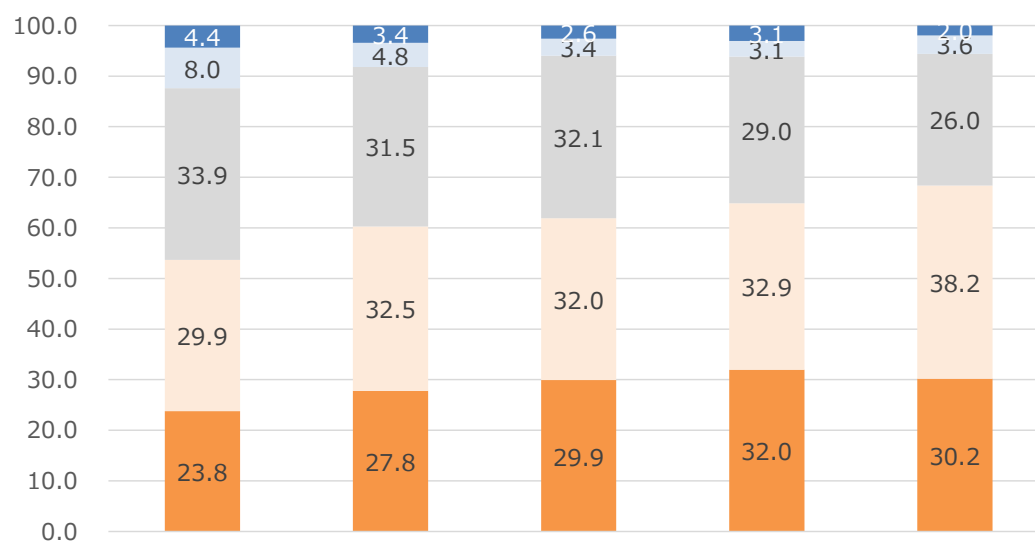
当事者（15～24歳）の回答



■感じる ■やや感じる ■どちらともいえない ■やや感じない ■感じない

n=3,892 回答対象：年齢15～24歳

25～69歳の年代別回答



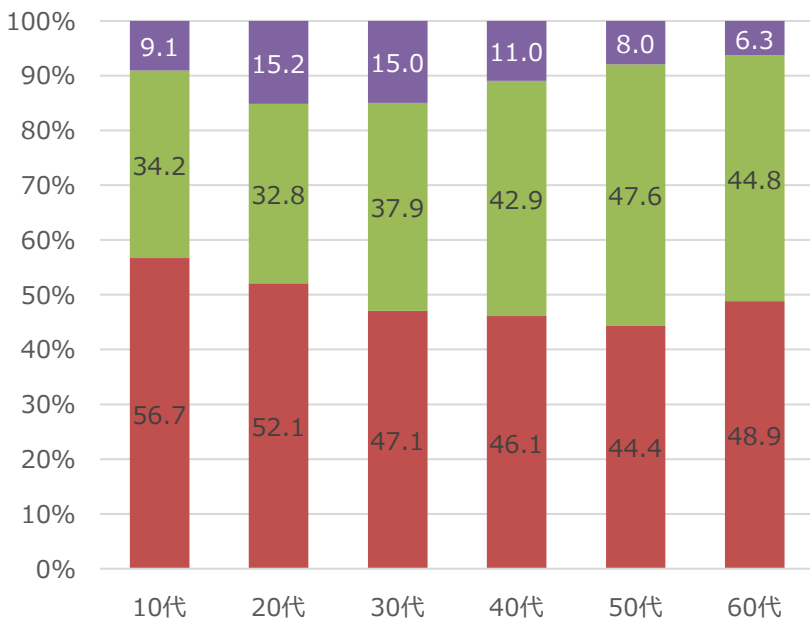
■感じる ■やや感じる ■どちらともいえない ■やや感じない ■感じない

n=15,012 回答対象：年齢25～69歳

ライフデザインの必要性

- いずれの年代でも40%以上の人々が「ライフデザインを考える機会がある社会」に対して、その必要性が高いと感じると回答。また、若い年代ほど自身のライフデザインを考える機会が必要だと考えている。

Q17. 学び方・働き方・暮らし方等に関する実態や情報を知り、「ライフデザインを考える機会がある社会」に対する必要性が高いと思いますか。



■ 必要性が高いと感じる ■ どちらともいえない ■ 必要性が高いとは思わない

n=18,760 回答対象：全員

Q18. あなた自身は、学び方・働き方・暮らし方等に関する実態や情報を知り、ライフデザインを考える機会が欲しいですか。



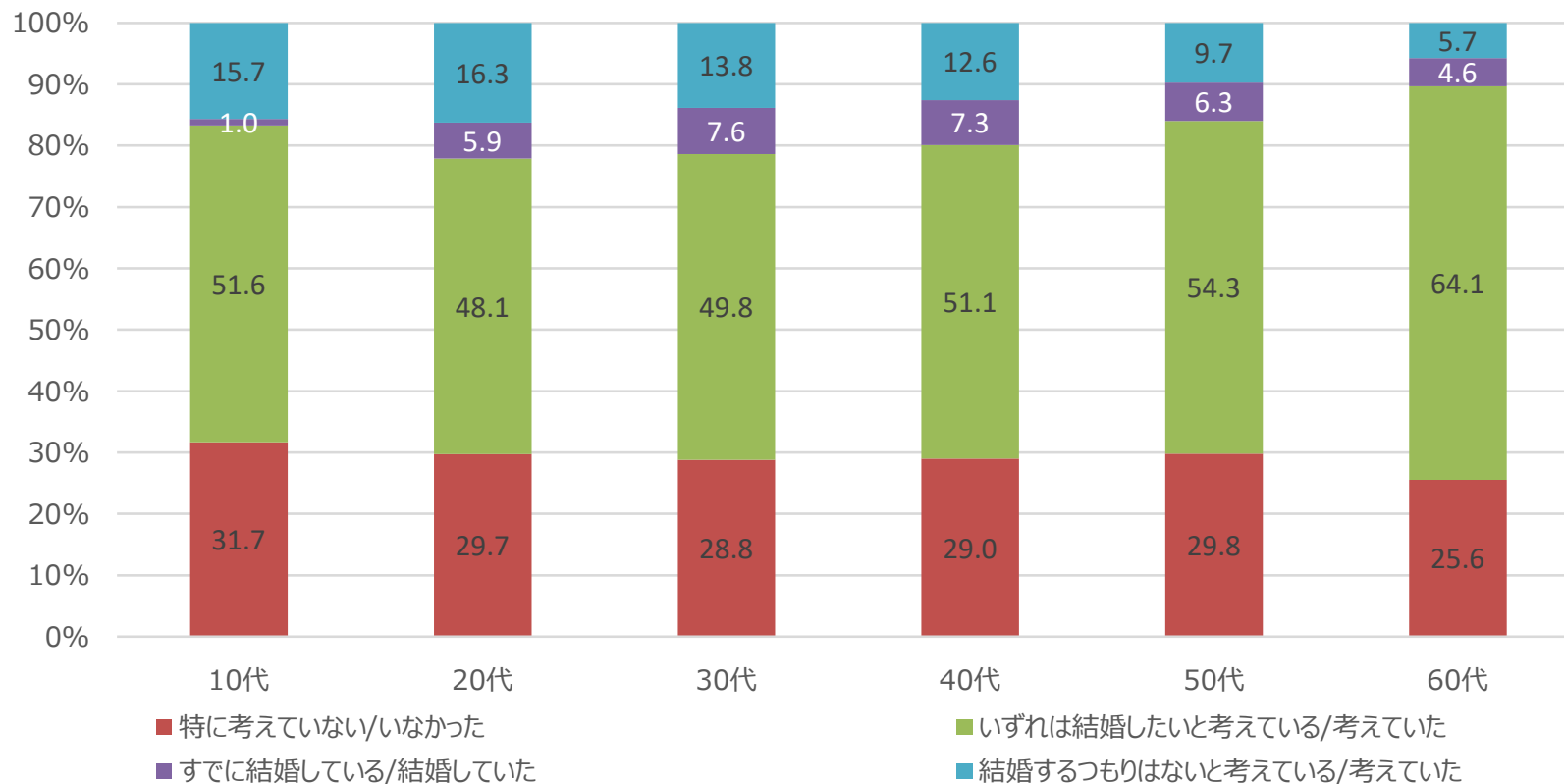
■ 欲しいと感じる ■ どちらともいえない ■ 特にほしくない ■ 既に客観的な情報収集やライフデザインを行っている

希望のライフコース

- いずれは結婚したいと考えている/考えていた人の割合が多く、20代以降、年代が上がるにつれ、結婚するつもりはないと考えている/考えていた人の割合は減っている。

Q19. あなたの結婚に対する考えは次のうちどれに当てはまりますか。【15-20歳】

Q19. あなたが20歳の頃の結婚に対する考えは次のうちどれに当てはまりますか。【21歳以上】

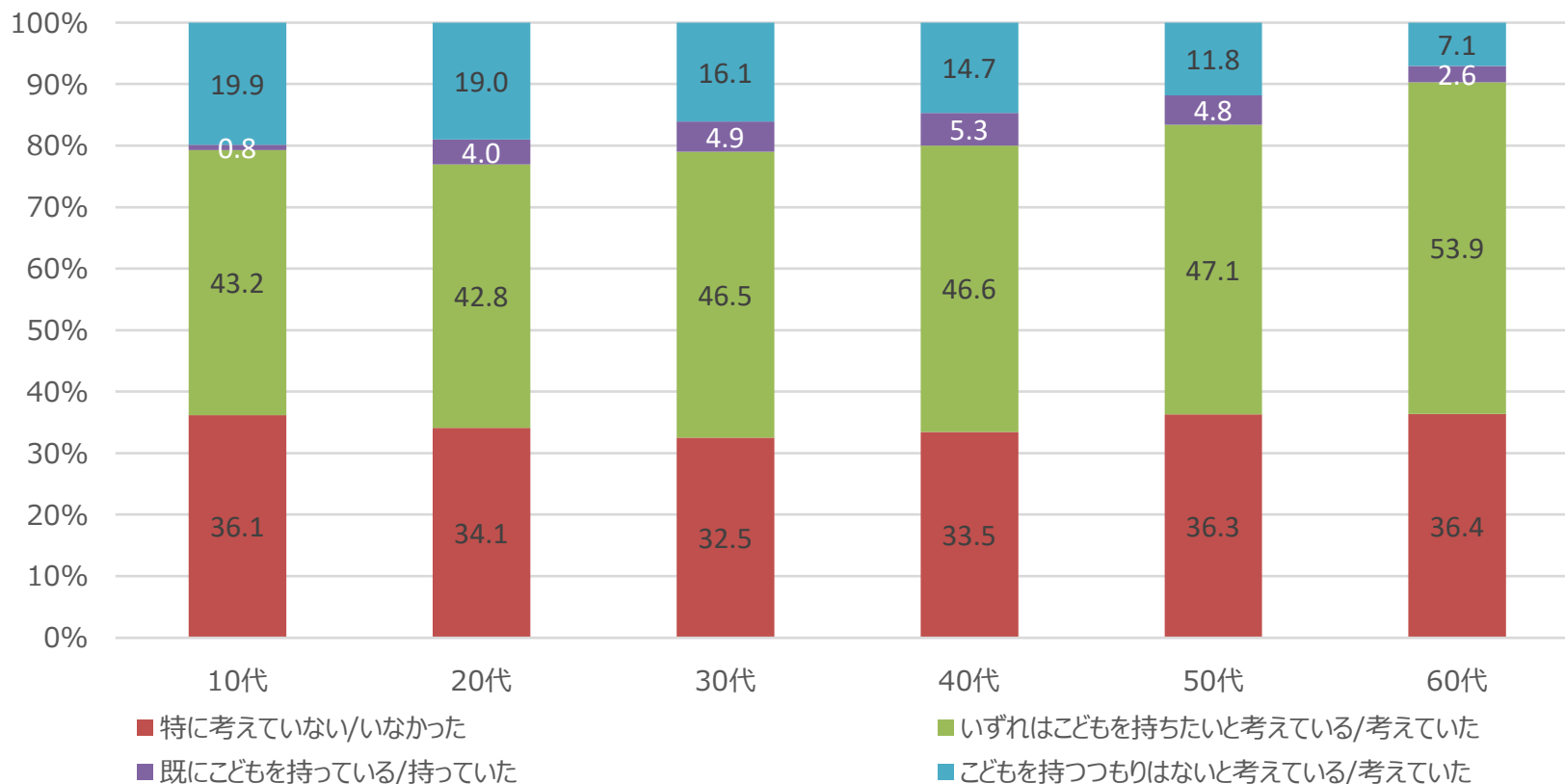


希望のライフコース

- いずれ子どもを持ちたいと考えてる/考えていた人の割合が多く、年代が下がるにつれ、子どもを持つつもりはないと考えている/考えていた人の割合が増えている。

Q20.あなたの子どもに対する考えはつぎのうちどれに当てはまりますか。【15-20歳】

Q20.あなたが20歳の頃の子どもに対する考えは次のうちどれに当てはまりますか。【21歳以上】

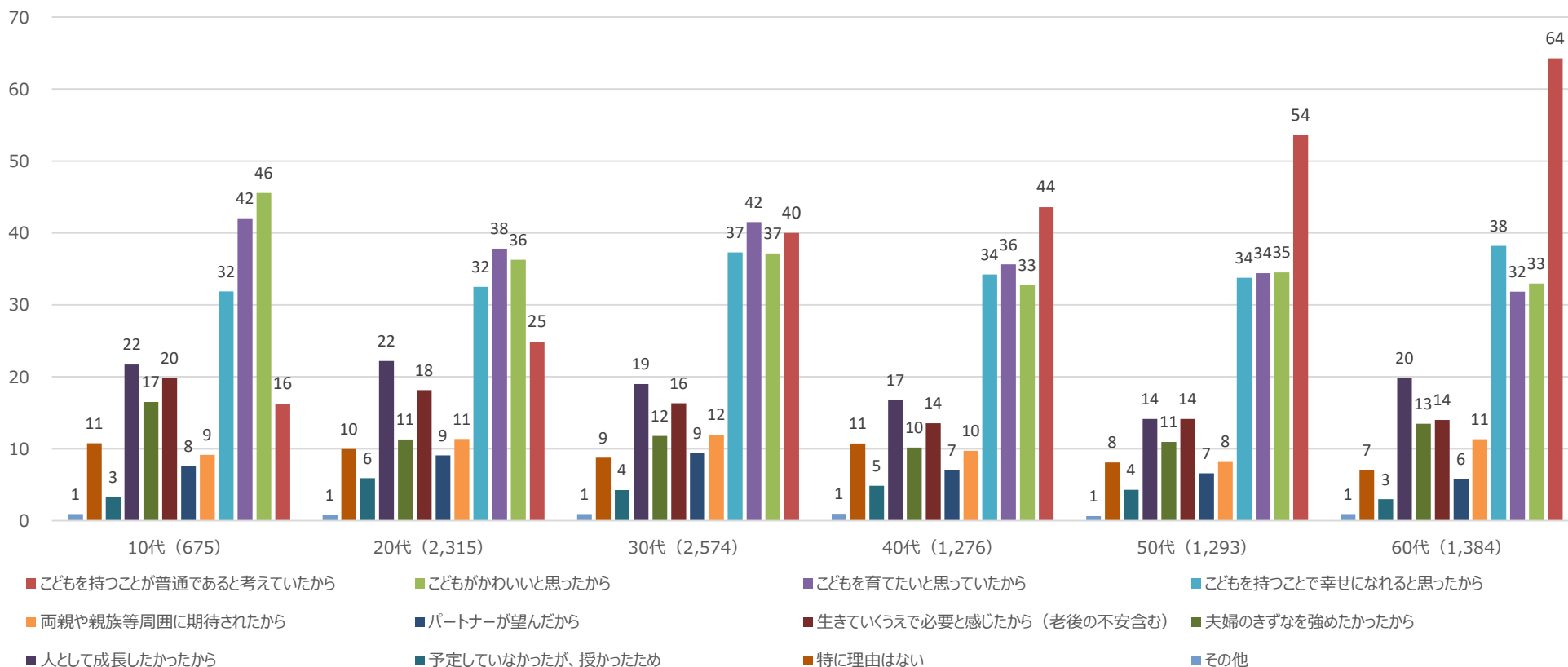


n=18,760 回答対象：全員

希望のライフコース

- 「こどもを持つことが普通であると考えていたから」と回答した人の割合は、年代が下がるにつれ、少なくなっている。

Q21.こどもを持ちたいと考えているまたは持とうと考えた理由として該当するものをお選びください。

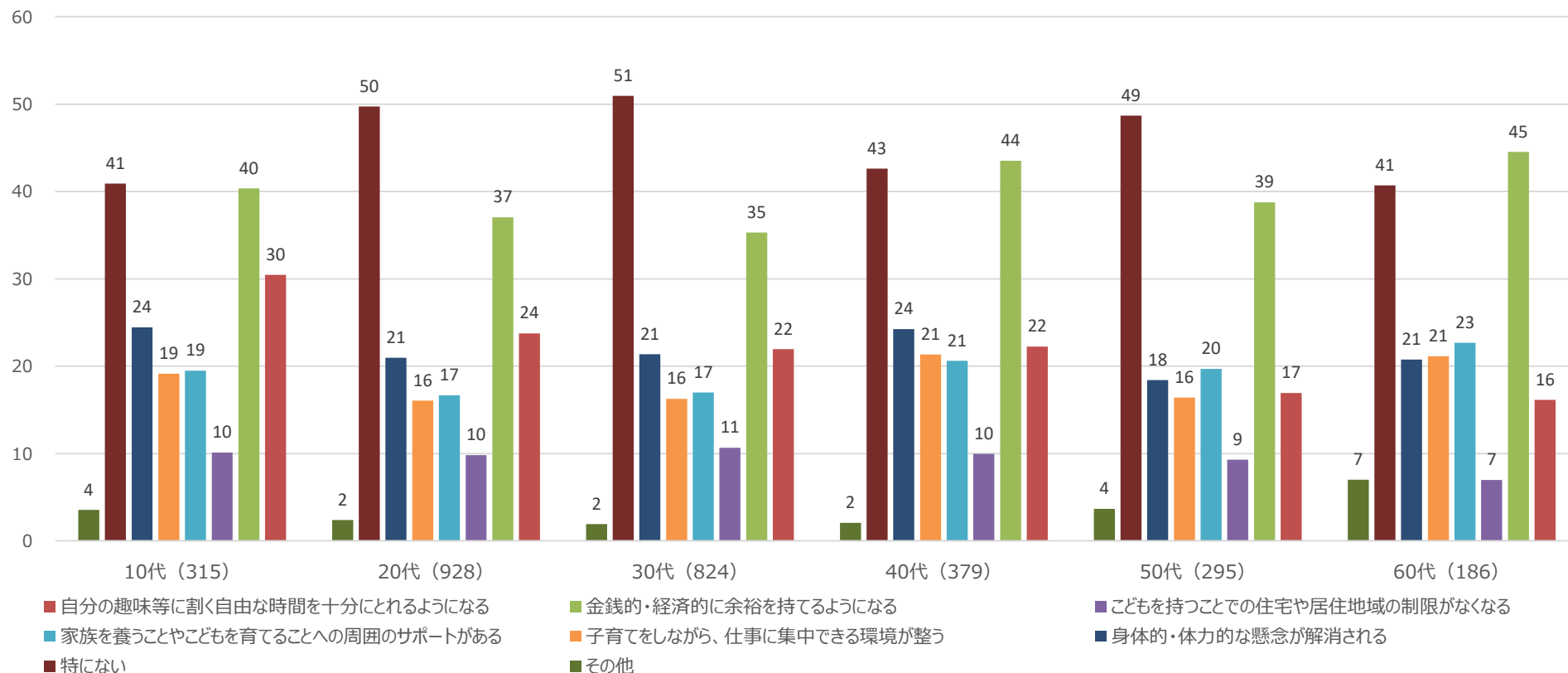


n=9,517 回答対象：こどもに対する考え方「いずれはこどもを持ちたいと考えている/考えていた」「既にこどもを持っている/持っていた」と回答

希望のライフコース

- 特にないを除くと、いずれの年代でも、金銭的・経済的な余裕を挙げている人の割合が高い。
- 自分の趣味等の自由な時間を挙げている人の割合は、年代が下がるにつれ高くなっている。

Q22.以下の環境変化のうち、どの変化が生じれば子どもを持ちたいと思えるようになるか、該当するものをすべてと最も当てはまるものをお選びください。

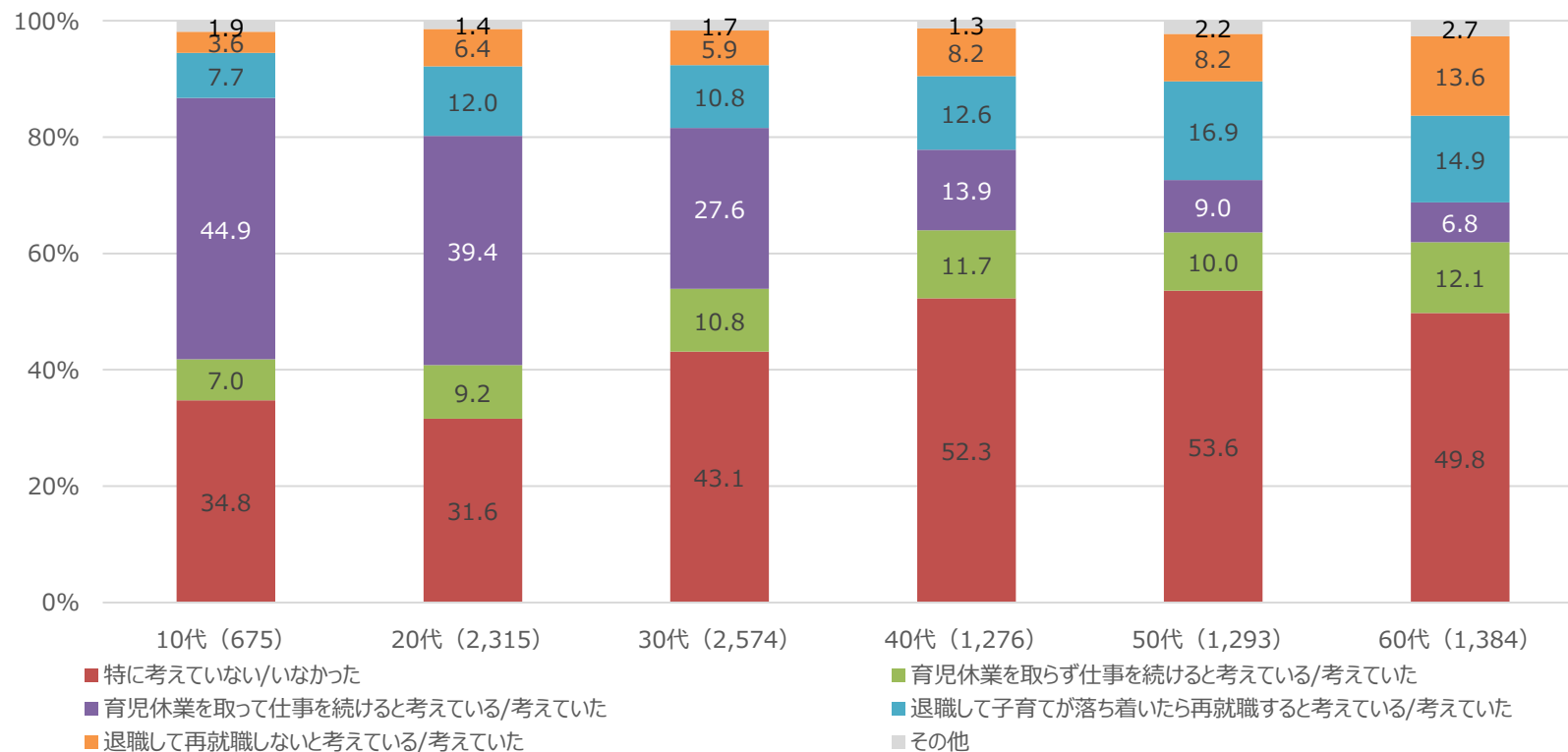


n=2,927 回答対象：子どもに対する考え方「子どもを持つつもりはないと考えている/考えていた」と回答

希望のライフコース

- 育児休業を取得し、仕事を続けると考えている/考えていたの割合は、年代が下がるにつれ増えている。

Q23. あなたのこどもを持った後の希望する働き方は次のうちどれに当てはまりますか。【15-20歳】
Q23. あなたが20歳の頃、こどもを持った後の希望する働き方は次のうちどれに当てはまりましたか。【21歳以上】



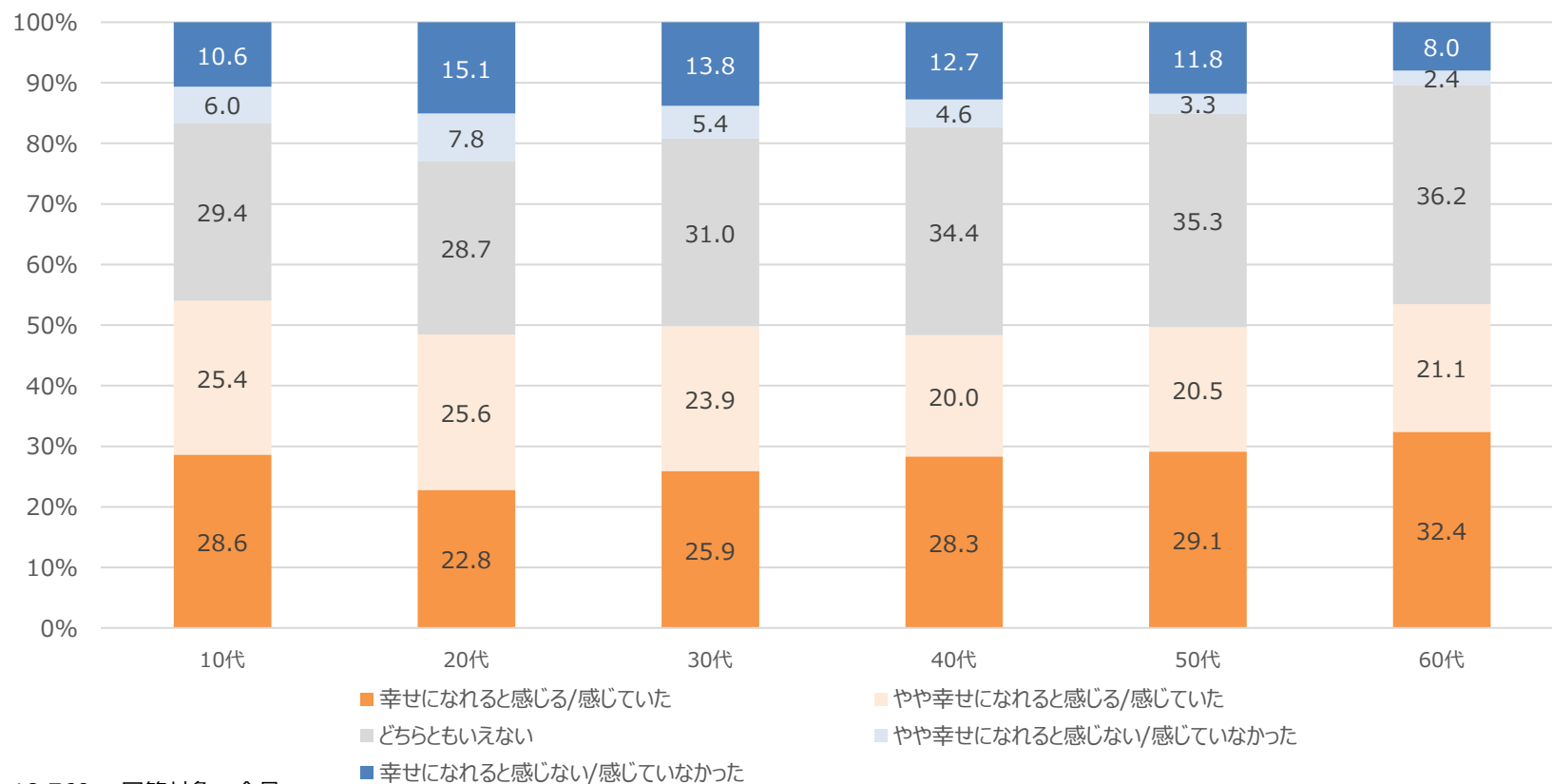
n=9,517 回答対象：こどもに対する考え方「いずれはこどもを持ちたいと考えている/考えていた」「既にこどもを持っている/持っていた」と回答

こどもを持つことと幸福度

- こどもを持つことと幸福度の関係についての考えは、年代によって大きな差は見られなかった。

Q24. あなたはこどもを持つことで幸せになれると感じますか。【15-20歳】

Q24. あなたが20歳の頃、あなたはこどもを持つことで幸せになれると感じていましたか。【21歳以上】



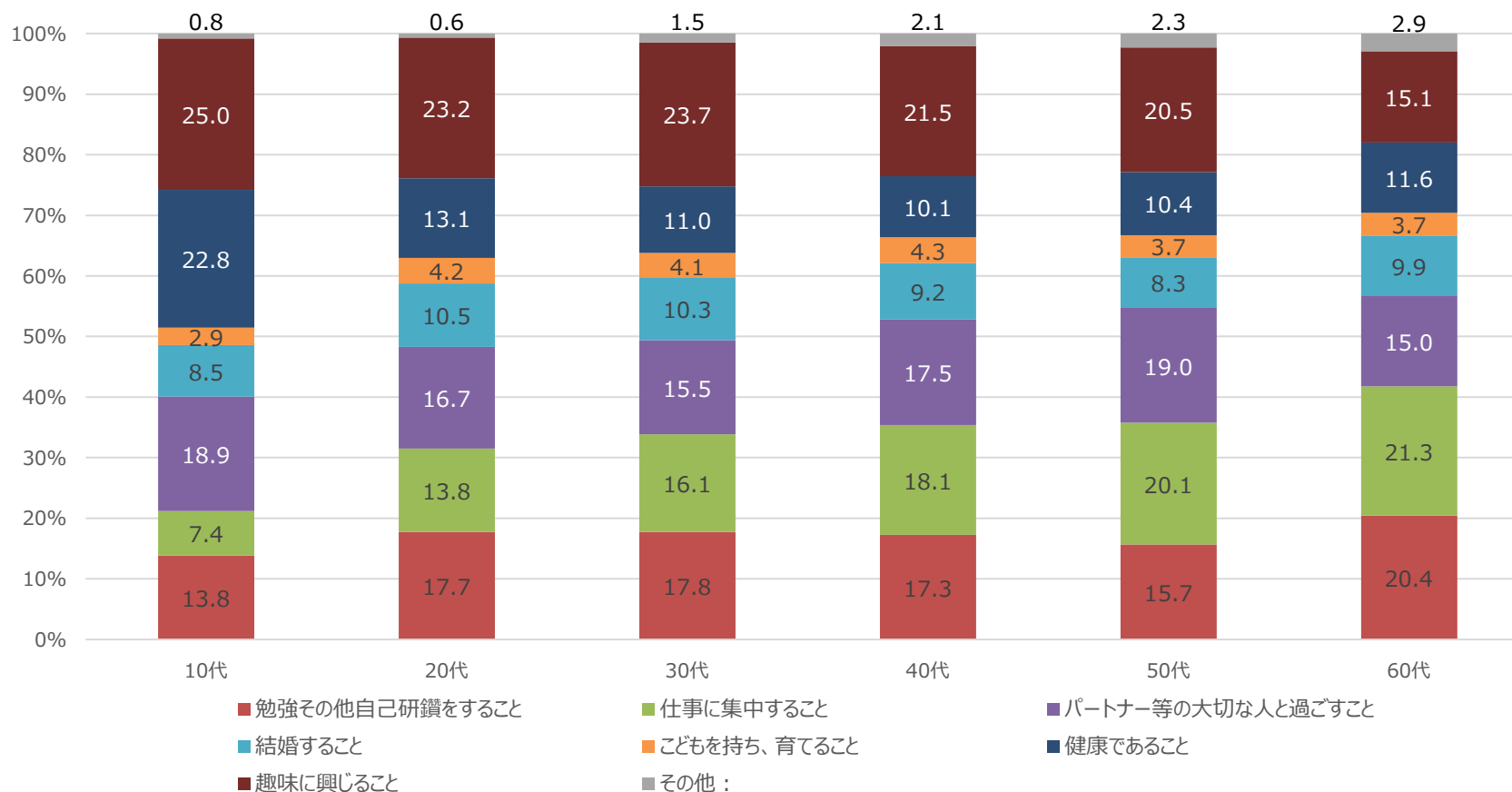
n=18,760 回答対象：全員

重要なライフイベント

- 年代が下がるにつれ、「趣味に興じること」が重要であると回答した割合が増え、「仕事の集中すること」が重要と回答した割合は減っている。

Q25. あなたが最も重要と考えるライフイベント等をお選びください。【15-20歳】

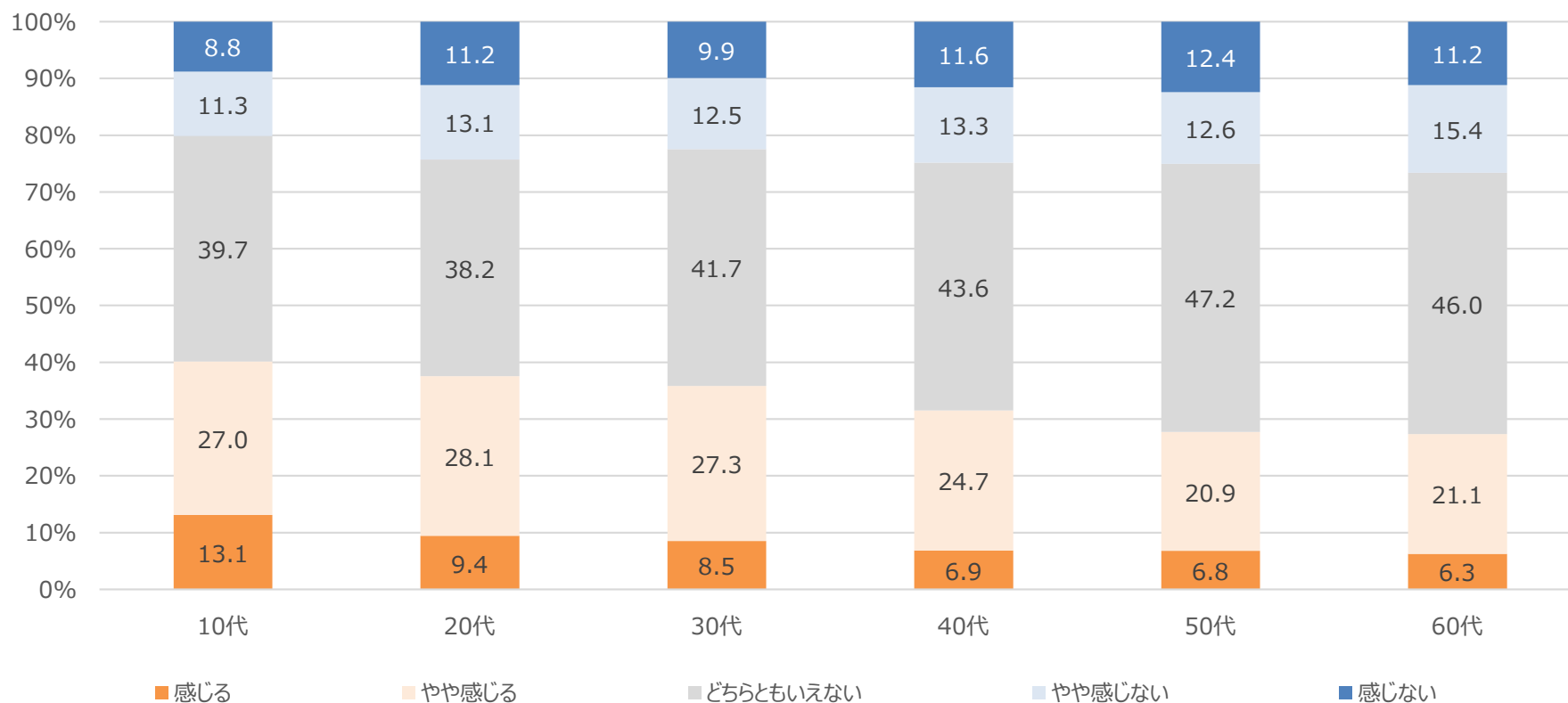
Q25. あなたが20歳の頃、最も重要と考えていたライフイベント等をお選びください。【21歳以上】



結婚/妊娠/子育て環境の変化

- 自分の世代は、結婚/婚活しやすい環境だと感じる/やや感じる人の割合は、年代が下がるにつれ増えている。

Q26-1.自分の世代が結婚/婚活（結婚するための活動全般）を支援する制度・サービスがあり、結婚/婚活しやすい環境だと感じる。

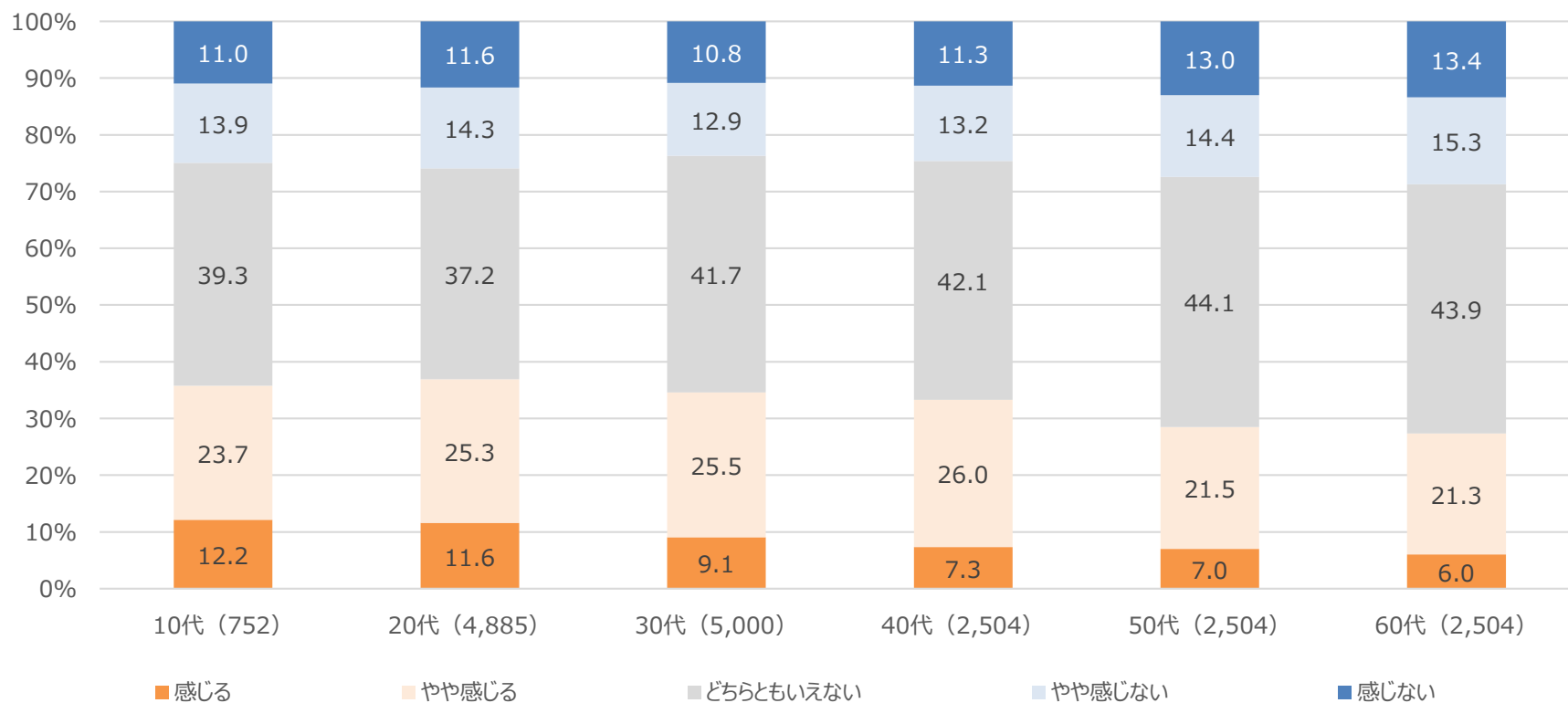


n=18,760 回答対象：全員

結婚/妊娠/子育て環境の変化

- 自分の世代は、妊娠/妊活しやすい環境だと感じる/やや感じる人の割合は、10代を除き、年代が下がるにつれ増えている。

Q26-2.自分の世代が妊娠/妊活（妊娠を望む男女がこどもを持つために行う、妊娠しやすい体づくりのための活動全般）を支援する制度・サービスがあり、妊娠/妊活しやすい環境だと感じる

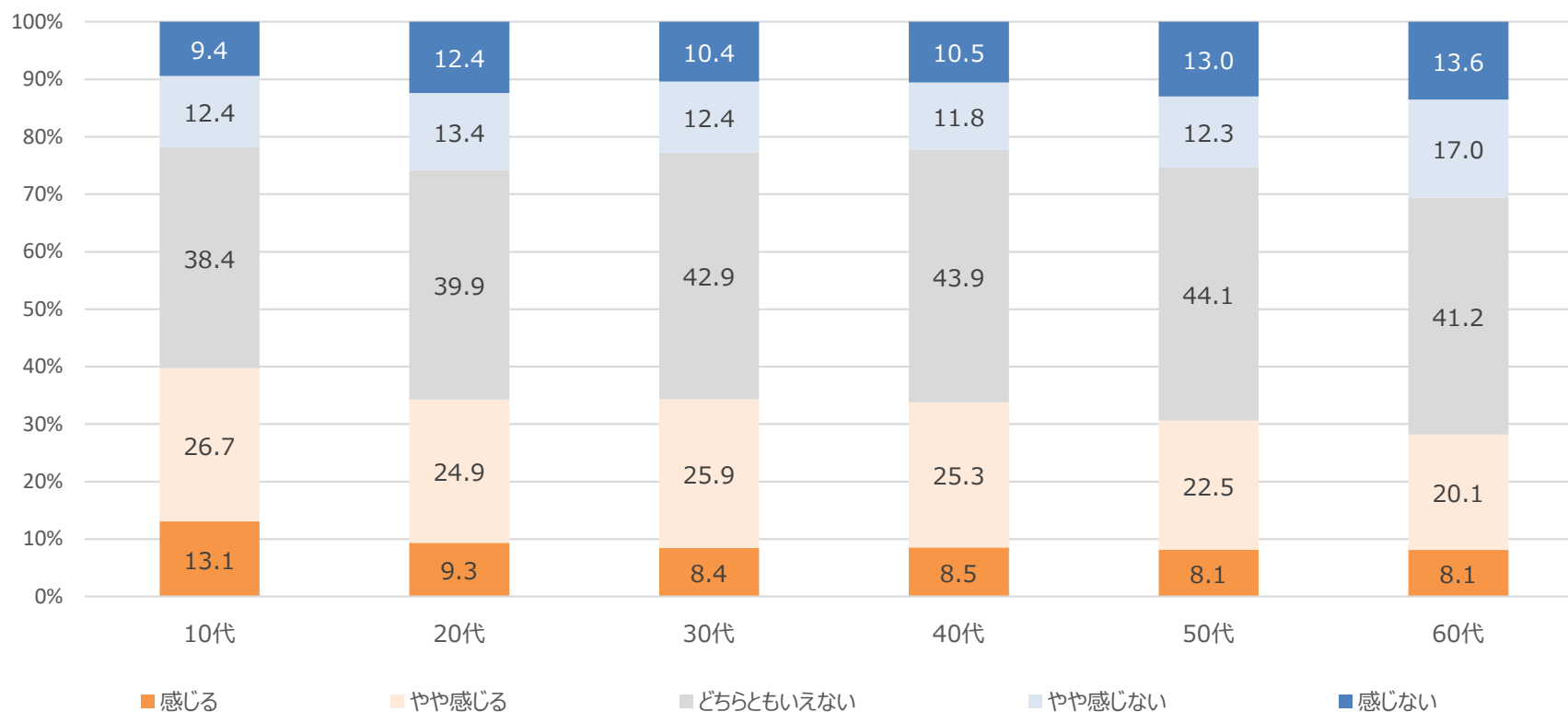


n=18,149 回答対象：年齢18～69歳

結婚/妊娠/子育て環境の変化

- 自分の世代は、子育てしやすい環境だと感じる/やや感じる人が年代が下がるにつれ増えている。

Q26-3.自分の世代が子育てをすることを支援する制度・サービスがあり、子育てしやすい環境だと感じる。



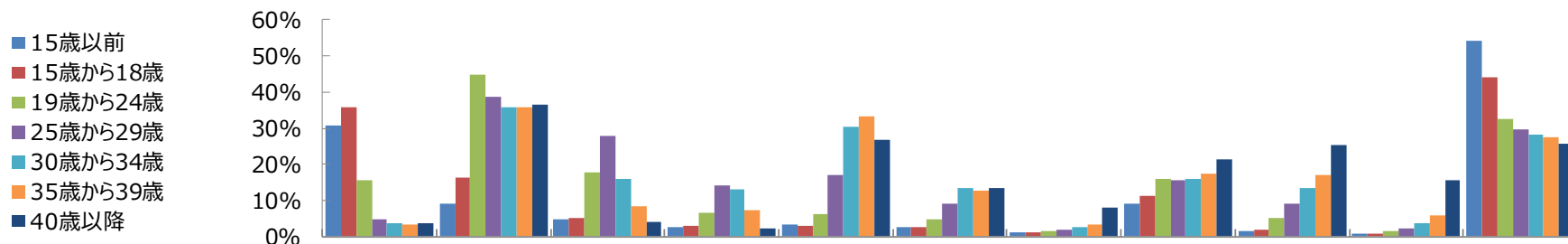
n=18,760 回答対象：全員

ライフデザインの経験等

ライフデザインの経験

- 関連するライフイベントに近い時期に、関係する項目のライフデザインが行われていた。
- どの項目についてもライフデザインを行わなかった人がいずれの年代においても25%以上存在していた。

Q27.あなたは、将来のライフイベント（進学、就職、結婚・育児、住宅の確保、資産の形成、老後など）について、自分の価値観に基づいた選択ができるように、自分の考え方や将来の見通しを整理したことがありますか。そのようなライフデザインの経験がある場合、その時期に考えた項目を選択してください。



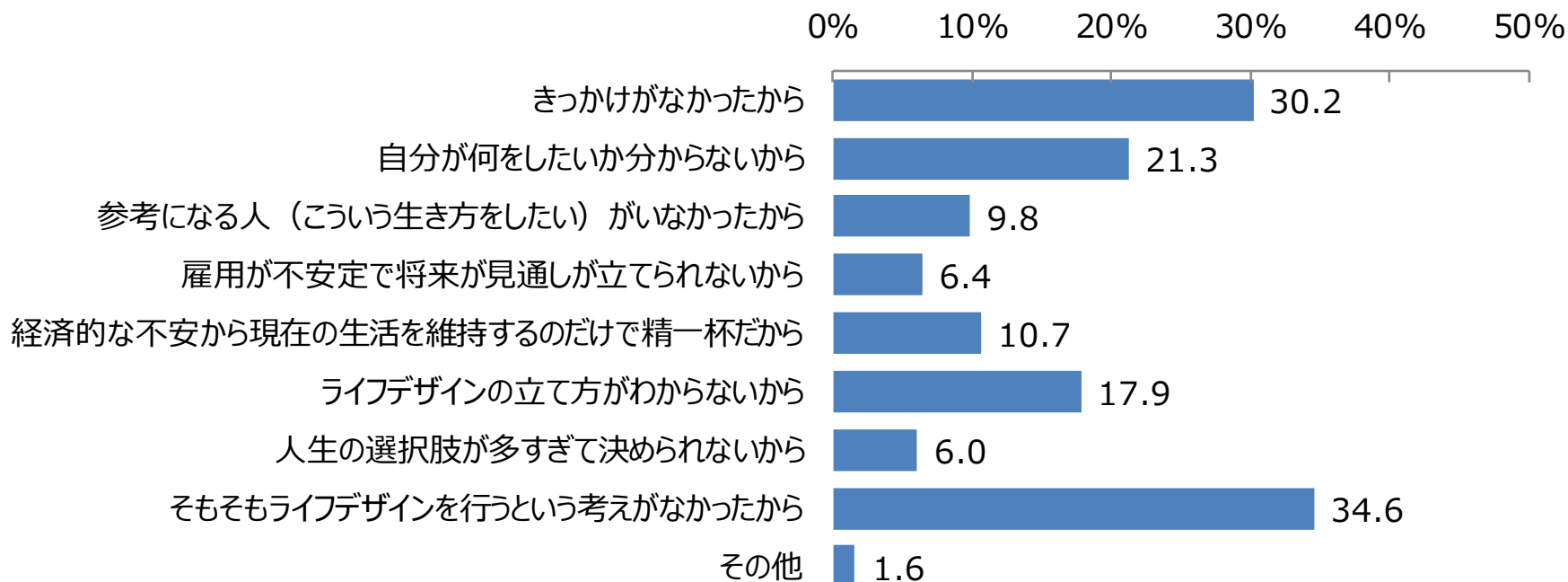
	n	進学・ 学び直し	仕事 (就職・ 転)	結 婚	妊 娠・ 出 産	子 育 て	住 宅・ 居 住 地 域	介 護	趣 味	資 産 形 成	老 後	は 行 わ な か つ た
15歳以前	18,904	30.9	9.3	4.7	2.7	3.2	2.5	1.3	9.3	1.6	0.8	54.1
15歳から18歳	18,904	35.9	16.3	5.2	3.0	2.9	2.6	1.3	11.1	2.1	0.9	44.2
19歳から24歳	17,798	15.6	44.8	17.8	6.6	6.3	4.8	1.7	15.8	5.3	1.4	32.5
25歳から29歳	15,012	4.9	38.7	27.9	14.1	16.9	9.1	1.9	15.8	9.0	2.1	29.5
30歳から34歳	12,512	3.8	35.8	16.0	13.0	30.2	13.5	2.5	16.1	13.6	3.8	28.0
35歳から39歳	10,012	3.4	35.9	8.3	7.3	33.4	12.6	3.4	17.4	16.9	5.9	27.5
40歳以降	7,512	3.9	36.5	4.1	2.4	26.8	13.3	8.2	21.4	25.3	15.7	25.5

n=18,760 回答対象：各対象年齢を経ている人

ライフデザインをしたことがない理由

- ライフデザインを行わなかった理由としては、「そもそも考えがなかった」や「きっかけがなかった」が多くの割合を占めていた。

Q28. ライフデザインを行ったことがない理由として該当するものをすべてお選びください。

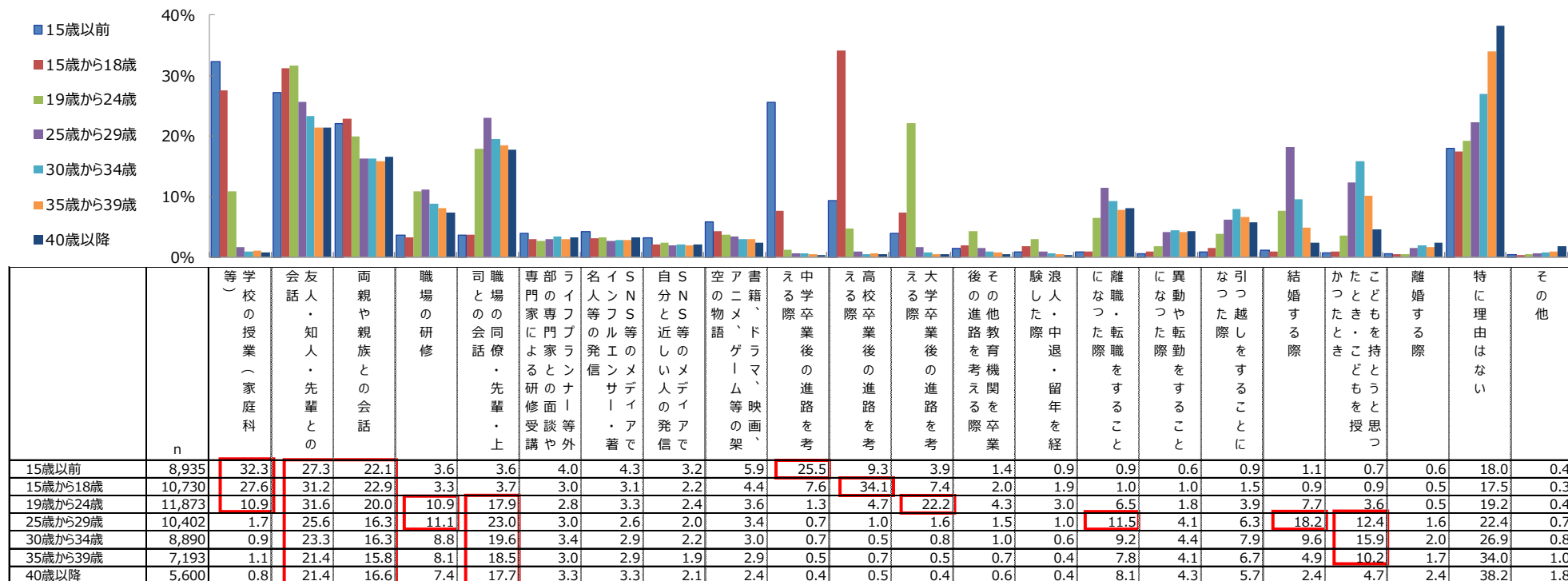


ライフデザインのきっかけ

ライフデザインの
経験あり

- ・ ライフイベントのタイミングはもちろん、身近の人との会話や所属組織による授業/研修がライフデザインのきっかけとなっていた。

Q29.あなたが初めてライフデザインをしたきっかけとして当てはまるものをお答えください。



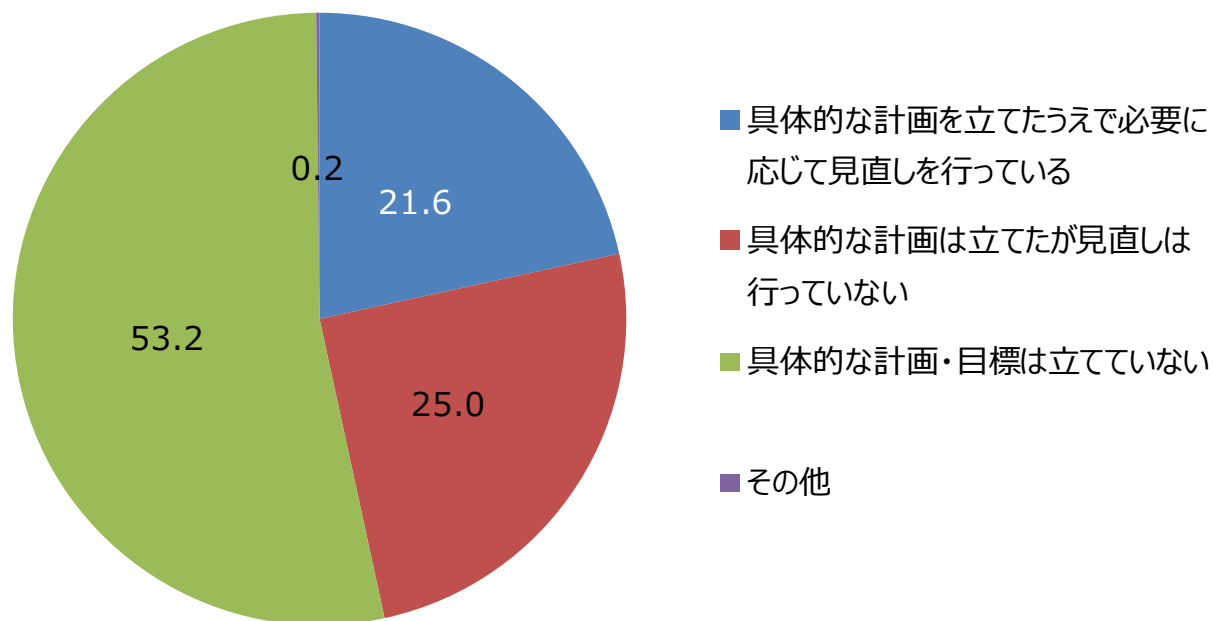
回答対象：各対象年齢時にライフデザインを行った人

具体的な計画の策定

ライフデザインの
経験あり

- ライフデザインを行った人のうち半分以上は、具体的な計画策定を行っていなかった。

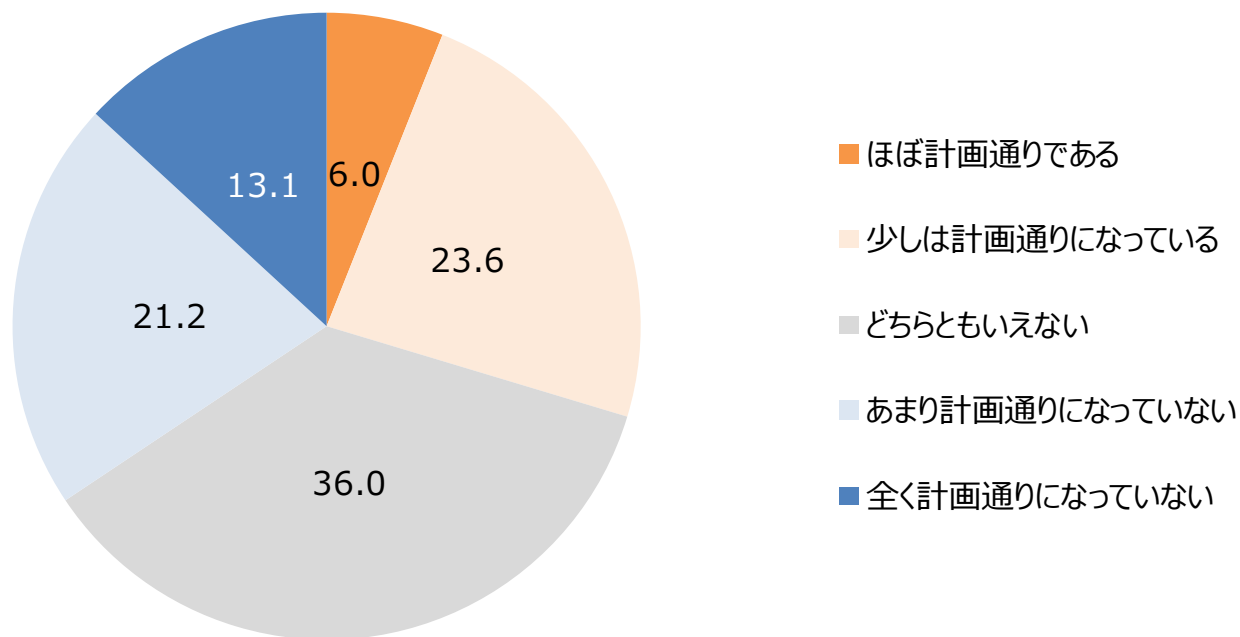
Q30.あなたは、初めてライフデザインを行って以降、目標の実現に向けた具体的な計画を立てたうえで見直し等を行っていますか。



ライフデザインの実現に関する実態

- 「ほぼ計画通り/少しは計画通りとなっている」、「どちらともいえない」、「あまり計画通りになっていない/全く計画通りになっていない」はそれぞれ30-40%となっていた。

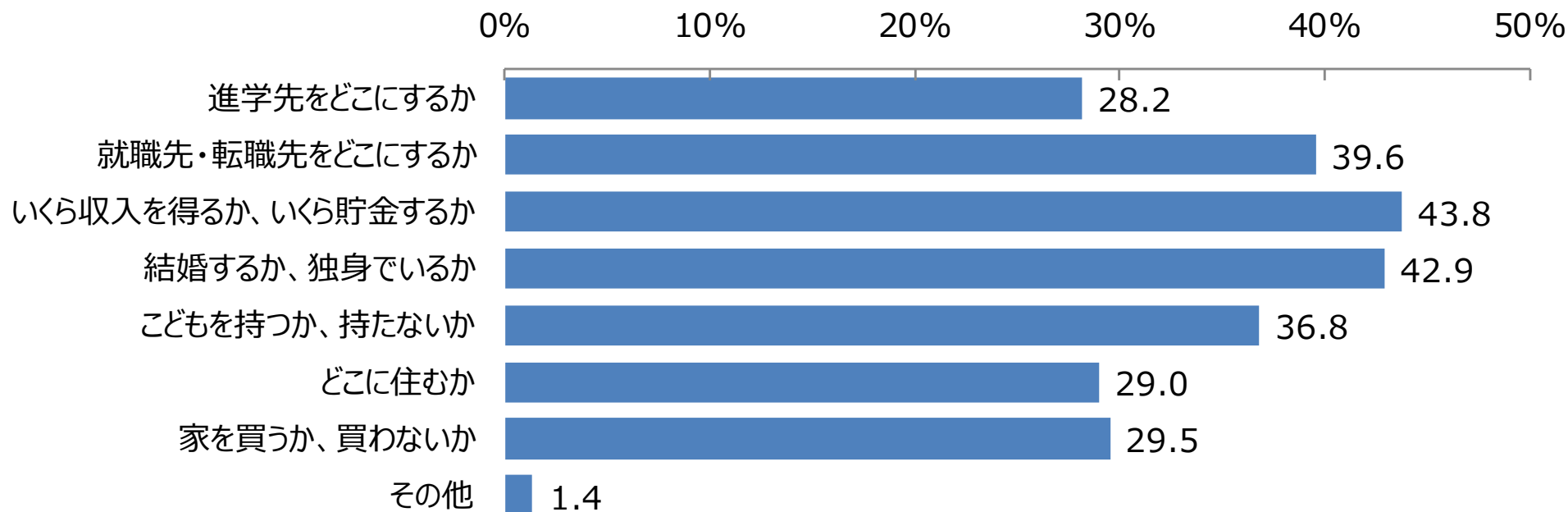
Q31.あなたの人生は、総じてライフデザインを通じて作成したライフプランの計画通りとなっていますか。



ライフデザインの実現に関する実態

- 就職先や収入・貯金に関すること、結婚、こども等家族形成に関して、計画通りとなっている層が30-40%と他項目に比べ比較的高くなっていた。

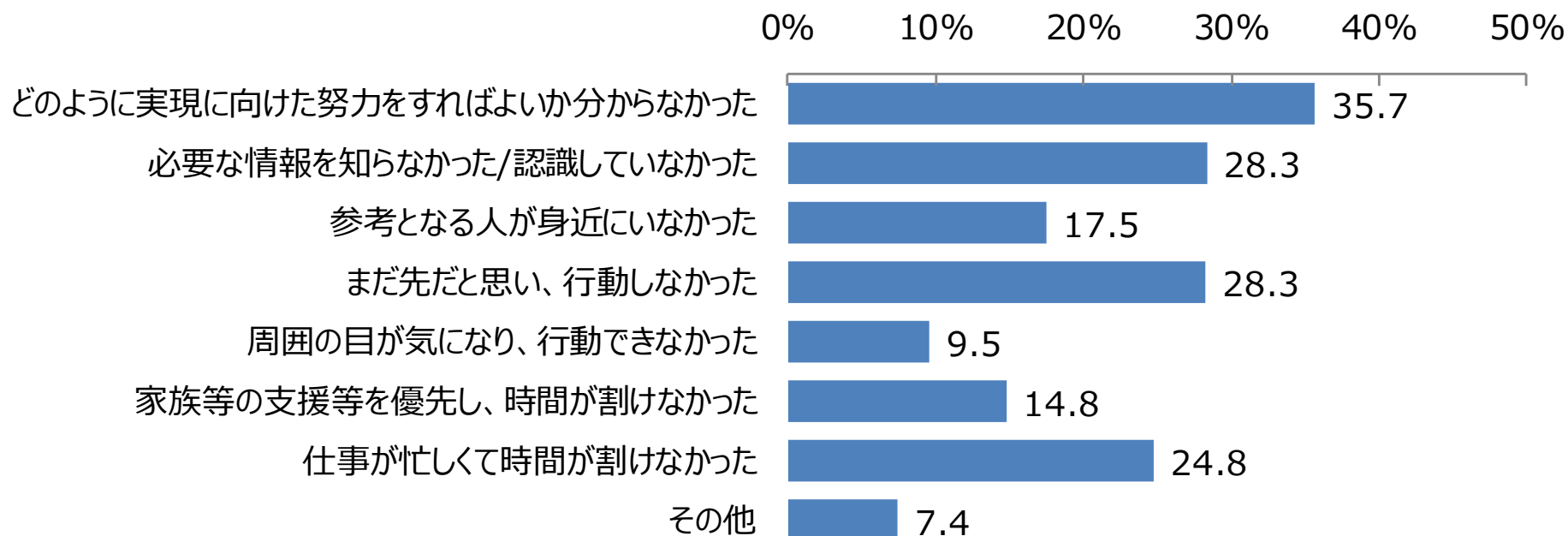
Q32. 次のどの点についてライフデザインを通じて計画した通りとなっていますか。



ライフデザインを実現できなかった理由

- 計画通りにならなかった理由として「どのように実現に向けた努力をすればよいか分からなかった」が最も多く、「必要な情報を知らなかった/認識していなかった」「まだ先だと思い、行動しなかった」がその次となっていた。

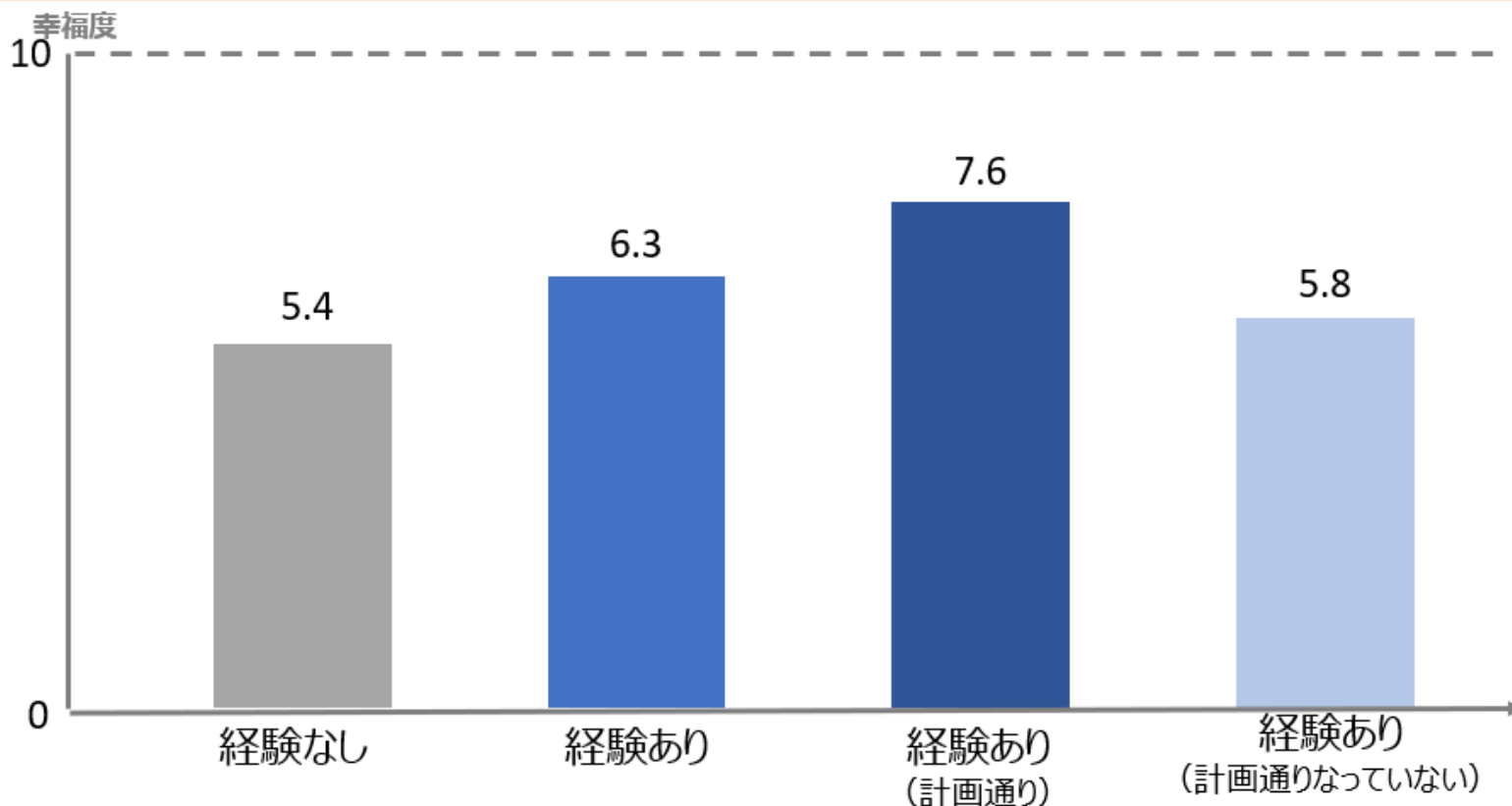
Q33.あなたは、計画通りにならなかった理由として当てはまるものをお選びください。



ライフデザインと幸福度の関係

- 「ライフデザインの経験がある層」は幸福度が高い水準となっていた。初めて行ったライフデザインが「計画通りとならなかった層」の幸福度は、「経験なし層」より若干高く、「経験あり層」より若干低い。

Q34. 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、いずれか1つだけ選んでください。



n=18,760 回答対象：全員

ライフデザインの見直しと幸福度の関係

ライフデザインの
経験あり

- 「目標の実現に向け具体的な計画を立てたうえで必要に応じて見直しを行っている人」は、見直しを行っていない、具体的な計画・目標を立てていない人と比べ、幸福度が高くなっていた。

Q.現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、いずれか1つだけ選んでください。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	加重平均（点）
		とても不幸 (0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	とても幸せ (10)	
全体		2.9	1.8	3.8	5.5	6.2	19.9	12.2	16.3	16.9	6.0	8.6	6.13
Q30 あなたは、初めてライフデザインを行って以降、目標の実現に向けた具体的な計画を立てたうえで見直し等を行っていますか。	具体的な計画を立てたうえで必要に応じて見直しを行っている	1.5	0.8	1.9	2.7	3.6	11.9	9.5	17.3	23.5	10.4	16.8	7.15
	具体的な計画は立てたが見直しは行っていない	1.4	1.2	3.0	4.7	7.4	17.6	14.0	19.0	18.1	6.2	7.5	6.31
	具体的な計画・目標は立てていない	2.4	2.1	4.4	6.6	6.5	18.7	12.8	17.1	17.6	5.6	6.2	6.00

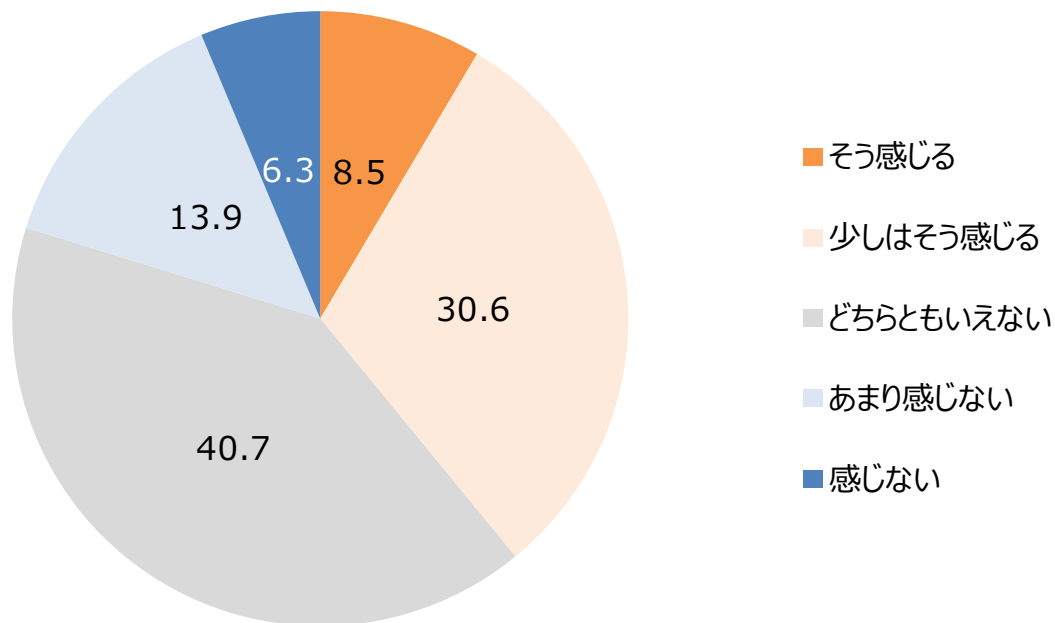
* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

ライフデザインの必要性

ライフデザインの
経験あり

- ライフデザインを行ったことで40%程度の人が、より納得感のある人生を歩んできていると感じていた。

Q35.あなたはライフデザインを行ったことで、より納得感のある人生や幸せな人生を歩んでこれていると感じますか。



ライフデザイン支援のニーズ

ライフデザイン支援のニーズ

- ライフデザイン支援を受けたい/やや支援を受けたい人は38.9%、やや支援を受けたくない/受けたくない人は24.7%であった。

Q36.あなたは周囲からライフデザインを行うための支援（ライフデザイン支援）を受けたいと思いますか。

Q37.あなたが周囲からライフデザイン支援をしてもらいたいと思う理由はなんですか。

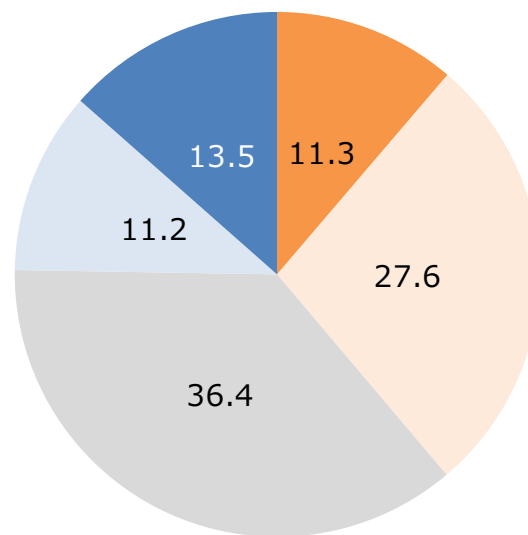
Q38.あなたがライフデザイン支援をしてもらいたくない、またはどちらともいえない理由はなんですか。

Q38.支援してもらいたくない/
どちらともいえない理由

ライフデザインを行うメリットや必要性がよく分からないから	32.2%
他人に自分のライフデザインの内容を知られたくないから	28.6%
支援がなくても自分でライフデザインを行うことができるから	27.1%
他人に自分のライフについて話しても、理解してもらえないから	26.6%
その他	1.9%

n=6,936

回答対象：ライフデザインを行うための支援を「どちらともいえない」「やや支援してもらいたいとは思わない」「支援してもらいたいとは思わない」と回答



Q37.支援してもらいたい理由

ライフデザインを行う基本的な知識がないから（ライフ、キャリア、ファイナンスの基礎情報を知らない）	38.8%
選択肢が多すぎて自分で決めるのが難しいから	38.8%
ライフデザインを行いたいと思っても、やり方がよく分からないから	38.4%
普段の生活ではライフデザインを行うきっかけがないから	34.4%
その他	0.6%

n=4,429

回答対象：ライフデザインを行うための支援を「支援してもらいたいと思う」「やや支援してもらいたいと思う」と回答

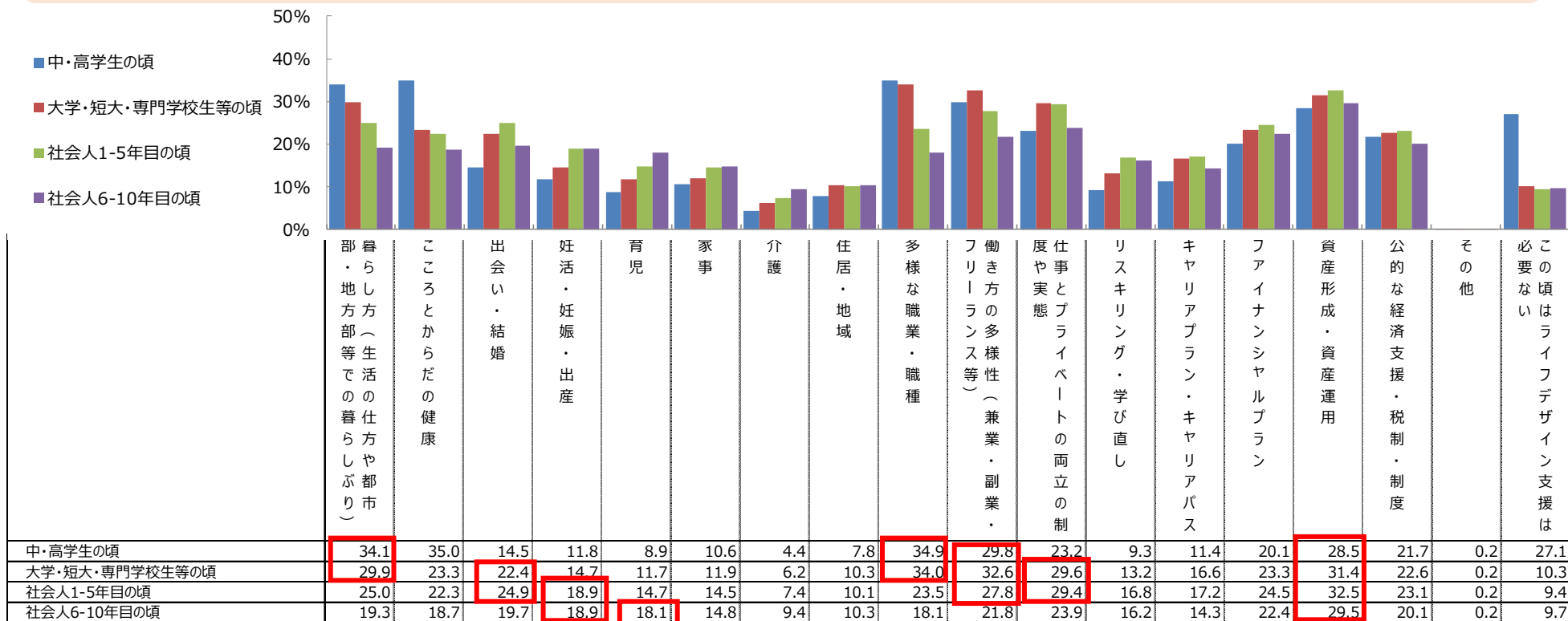
- 支援してもらいたいと思う
- やや支援してもらいたいと思う
- どちらともいえない
- やや支援してもらいたいとは思わない
- 支援してもらいたいとは思わない

n=11,392 回答対象：年齢15～39歳

求められる情報

- 暮らし方や職業・職種は学生期に、働き方や仕事とプライベートの両立は学生期から社会人1-5年目の頃に、結婚、出産、育児等に関する情報はライフイベントが近づいたタイミングで提供されることを望む人が多かった。
- 資産形成についてはどのタイミングでも情報提供されることを望む人が多かった。

Q39.それぞれの時期で、ライフデザイン支援を通じてどのような情報が提供されることが望ましいですか。あてはまるものを全て選んでください。

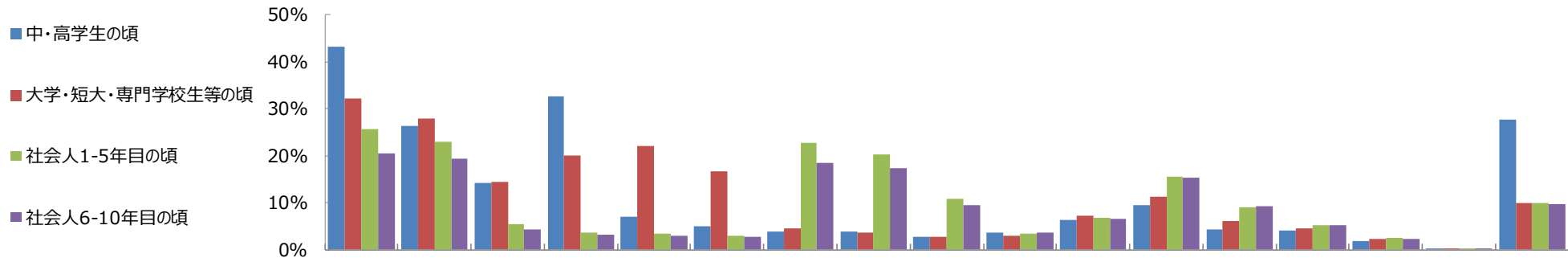


n=11,392 回答対象：年齢15～39歳

望まれる相談相手

- 中・高校生や大学生等の頃は家族・親族、友人・知人、学校の先生が多くなっており、社会人期は職場の周囲の方々が相談に乗ってもらえると望ましいという人が多かった。

Q40.それぞれの時期で、ライフデザイン支援として誰に相談に乗ってもらえることが望ましいですか。あてはまるものを全て選んでください。



	親・家族・親族	友人・知人	学校や地域の先輩	学校の先生	大学等のキャリアセン ター・就職支援課等	大学等の教授・教員等（ゼ ミ・研究室）	職場の先輩・同僚	職場の上司	職場の人事担当者	同じ地域に住む大人	普段接点を持つことのでき ない大人	専門家	公的機関の窓口	AI・人工知能	オンライン上で関わった人	その他	この頃はライフデザイン支 援は必要ない
中・高学生の頃	43.2	26.4	14.2	32.5	7.1	5.0	3.9	3.8	2.7	3.6	6.2	9.5	4.3	4.0	1.9	0.2	27.8
大学・短大・専門学校生等の頃	32.2	28.0	14.4	20.0	22.1	16.6	4.5	3.7	2.6	2.9	7.2	11.2	6.1	4.5	2.2	0.1	9.9
社会人1-5年目の頃	25.6	23.0	5.5	3.6	3.4	3.1	22.8	20.2	10.9	3.5	6.8	15.4	9.1	5.2	2.6	0.2	9.8
社会人6-10年目の頃	20.6	19.4	4.4	3.3	3.0	2.8	18.5	17.3	9.6	3.7	6.5	15.4	9.2	5.1	2.3	0.2	9.7

n=11,392 回答対象：年齢15～39歳

求められる情報

- OB/OG訪問マニュアル等の整備は比較的他の項目と比べ低い傾向にあるが、他の項目は50%程度の方が支援環境としてあった方が良い/ややあった方が良いと感じると回答した。

Q41.大学生・専門学校等の頃、以下のようなライフデザイン支援の環境がある方が/あった方が良いと考えるかどうかお聞かせください。

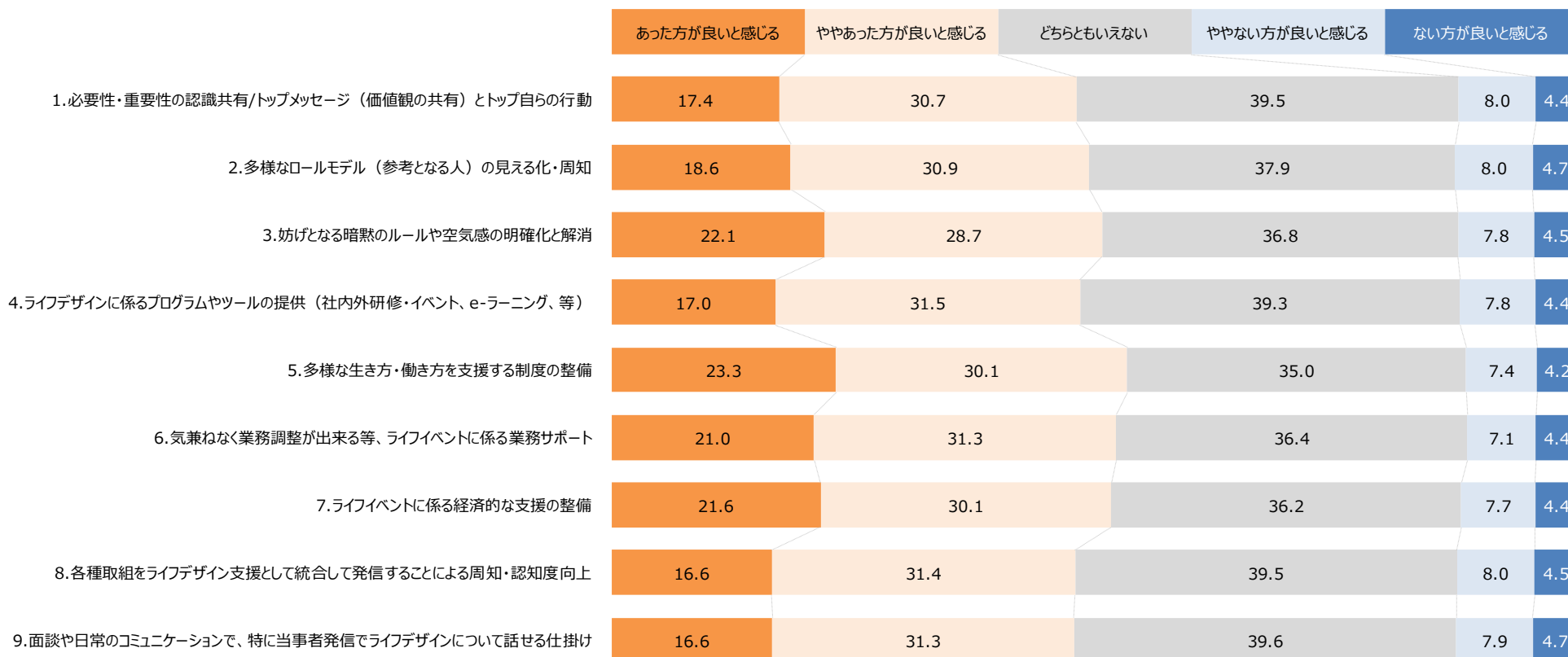
	あった方が良いと感じる	ややあった方が良いと感じる	どちらともいえない	ややない方が良いと感じる	ない方が良いと感じる
1.就職・キャリア相談や学内イベント等での、ライフに関する情報の提供	17.7	32.4	37.9	7.5	4.5
2.大学から提供される就職活動マニュアル等のコンテンツ内での、ライフとキャリアを併せて考える重要性のPR	16.8	31.2	39.5	7.9	4.6
3.OB/OG訪問時に、可能な範囲でライフについても何うようなOB/OG訪問マニュアルの整備	14.7	28.1	42.3	9.4	5.5
4.就活サイトでの、ライフとキャリアを併せて考える重要性のPR	16.8	30.8	39.4	8.1	4.9
5.就活サイトでの、ライフイベントについての情報提供	16.9	31.6	38.4	8.2	5.0
6.ライフデザインに係るプログラムやツールの提供	16.9	32.2	39.1	6.9	4.9
7.一般教養の科目の講義等において、ライフとキャリアに関する情報の提供	17.3	31.7	38.7	7.3	5.0
8.就職・キャリア相談時（面談等）に、ライフについても話すことができる仕掛け	18.3	32.2	37.5	7.3	4.6
9.ライフイベントを支援する各種制度等の案内の構内への掲示・掲載	16.8	32.4	38.6	7.5	4.7

n=11,392 回答対象：年齢15～39歳

求められる情報

- 社会人期においても、総じて50%程度の方が支援環境があった方が良い/ややあった方が良いと感じると回答した。

Q42.社会人になってから、以下のようなライフデザイン支援の環境があった方が良いと考えるかどうかお聞かせください。



n=11,392 回答対象：年齢15～39歳

